第 2 部

平成 28 年度大学入学学生への意識調査結果

1. 平成 28 年度大学入学学生対象アンケート調査単純集計分析結果

ここではまず始めに平成 28 年度入学した大学生を対象として実施したアンケート調査について得られた回答の分析を行うこととする。まず初めに単純集計分析について示し、その結果を紹介する。

(1) ．対象学生の個人属性

図 1 は、対象学生の性別分布を表したものである。男性が 81%と多数を占めている。また図 2 は所属する大学別の分布を示したものである。図 3 は対象学生の出身地を道内か道外かをまとめたものである。道内出身が 76%を占めている。

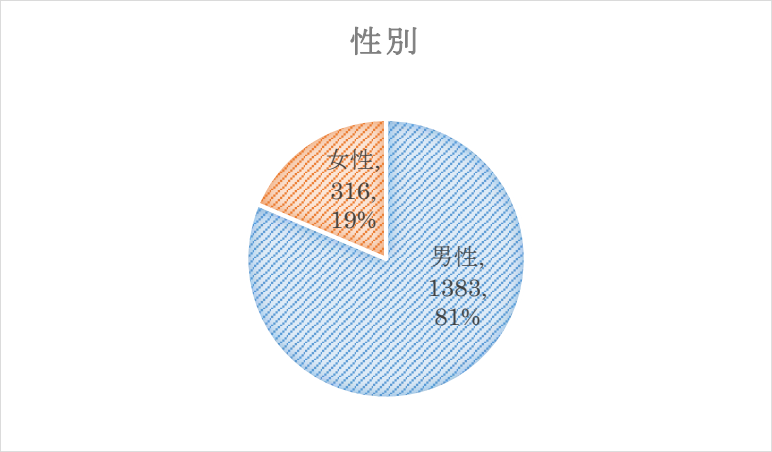


図 1　対象学生の性別分布

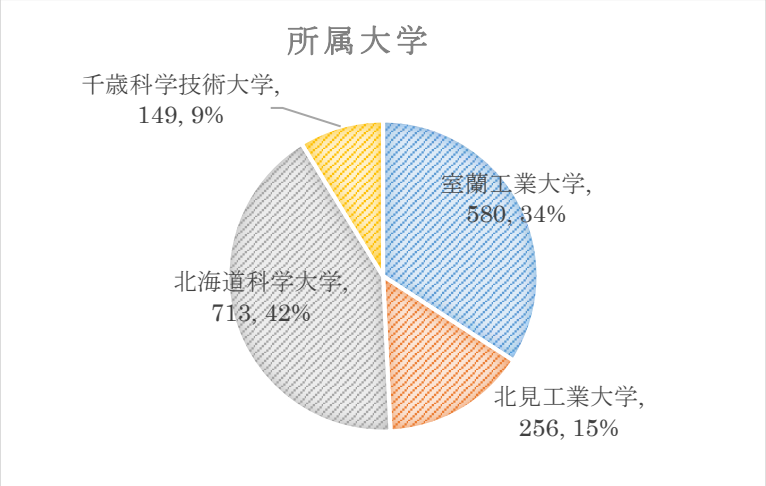


図 2　対象学生の所属大学別分布

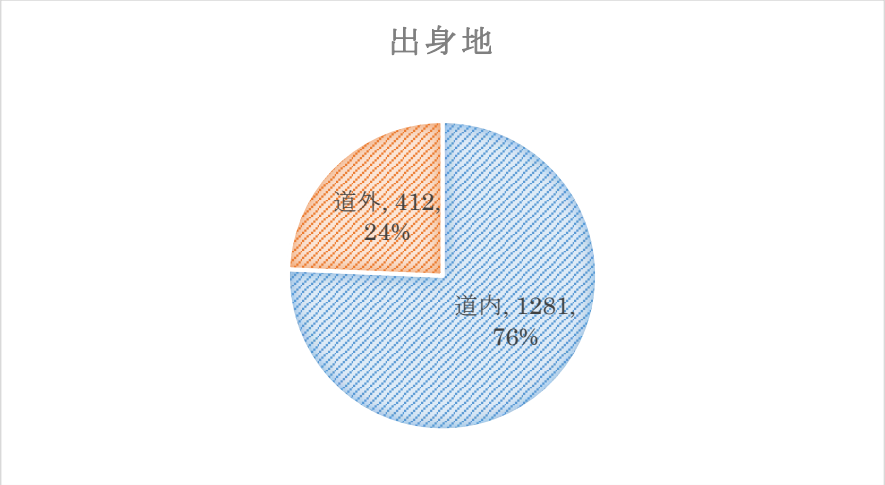


図 3　対象学生の道内外別出身地

さらにそれらについてより詳細の分布状況を示す。

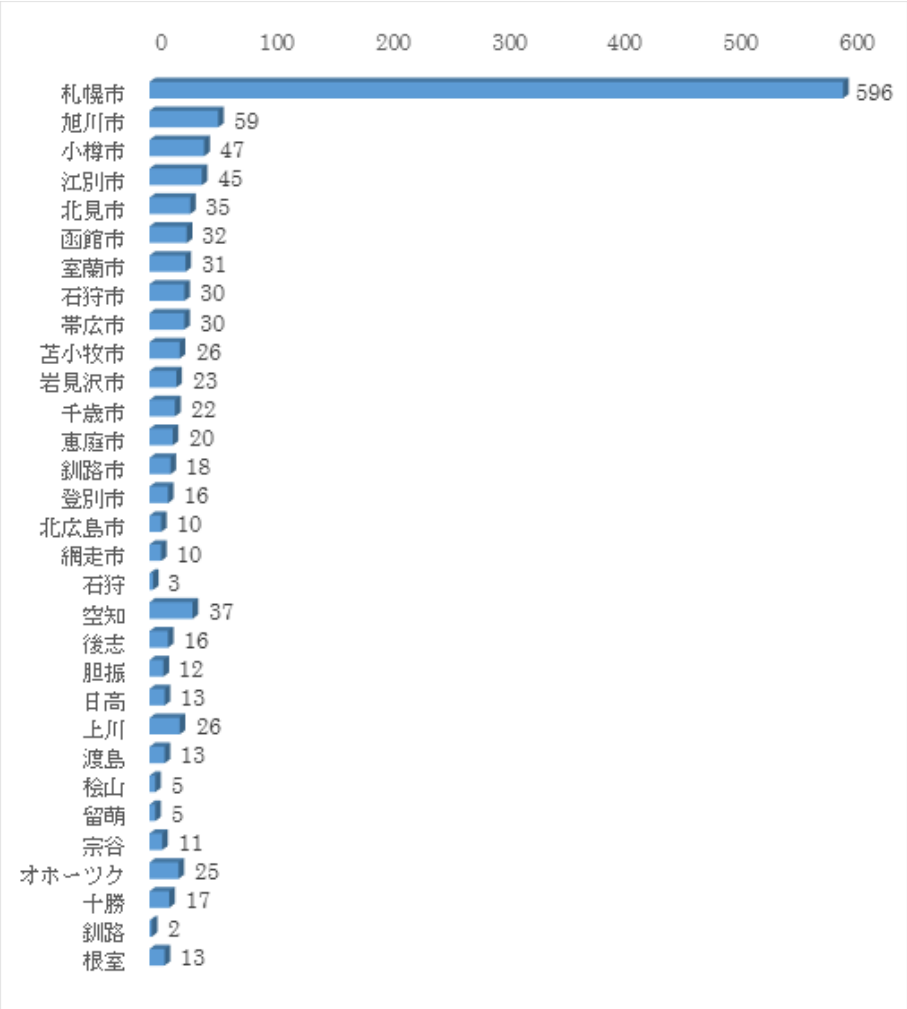


図 4　道内市町村、北海道総合振興局別の出身者

図 4 は、道内各市町村、道の総合振興局別の分布をみたものである。ここでは、出身者が 10 名以上の場合、市町村別、またそれ以下の市町村については所在する地の総合振興局に丸め込んだデータで表した。ここでは、圧倒的に札幌市が多く約半数の 48%、以下旭川市 4.7%、小樽市 3.8%、江別市 3.6%、北見市 2.8%の順となっている。また総合振興局別では、空知、上川、およびオホーツクの各振興局管内出身者が多い。図 5 は、道外出身者の各都府県、および各地域別の出身者を表したものである。ここでは、10 名以上の場合、都府県別、それ以下の都府県については、各地方に丸め込んで表している。

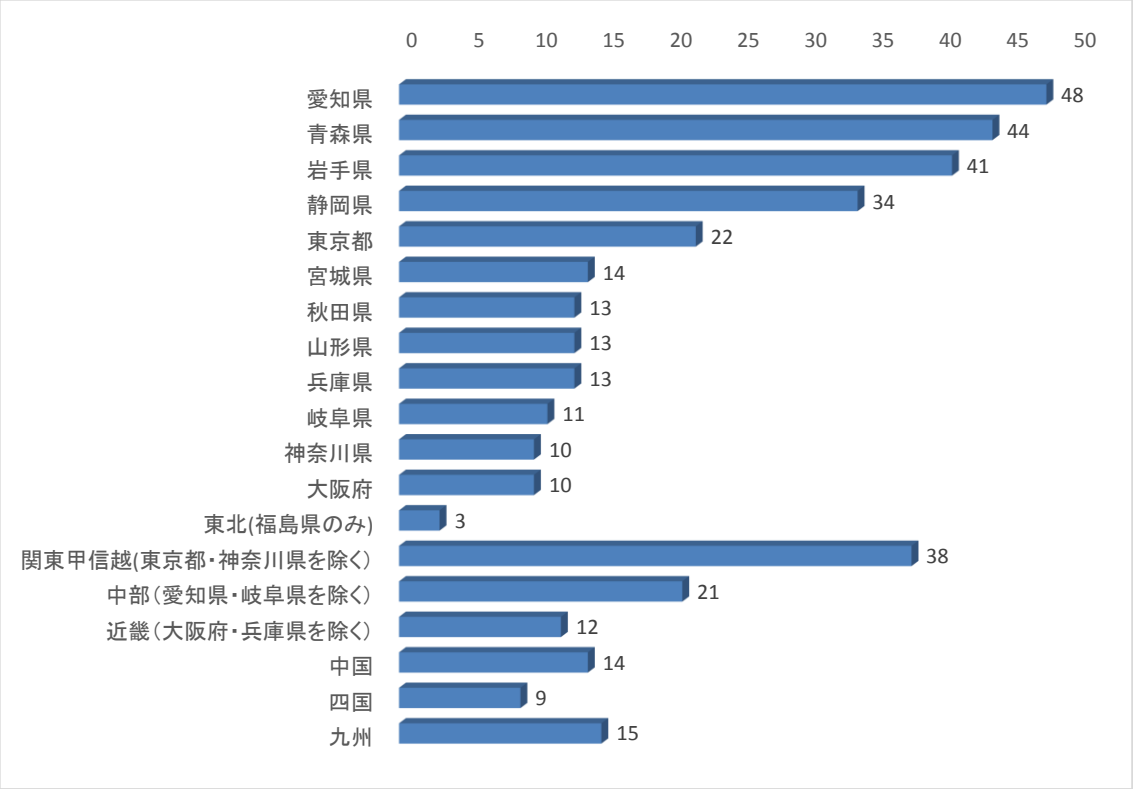


図 5　各都道府県および各地方別の出身者

ここでは、愛知県出身の学生が最も多く、青森県、岩手県等、比較的近隣の東北地方および、静岡県、東京都、さらに首都圏、中部など比較的人口密集地域からの入学生が多くなっている。

(2) ．将来の進路に対する考え方の現況

図 6 は卒業後の志望進路についての複数回答全数を 100%として相対的に取りまとめたものである。これによると「民間企業」が最も多く 42%、次が「公務員」21%、さらに「進学」で 17%と続いている。図 7 はそのうち第 1 志望の結果である。「民間企業」が 53%を占めており、次が「進学」で 20%、さらに「公務員」が 15%と続いている。図 8 は志望業種（複数回答）についての問いの答えである。これによ

ると「情報・通信業」が 25%（412 人）、「製造業（電気機器）」23%（375 人）、「サービス業(医療・福祉)」19%(311 人)、「製造業（精密機器）」19%（309 人）、「建設業」15%（248 人）の順となっている。また志望職種（複数回答）については、図 9 のように「技術系（電気・電子・機械・自動車）」が 33%（548 人）、「技術系（IT・通信・SE）」が 31%（511 人）、「公務系（地方公務員・国家公務員・独立行政法人・教員）」が 23%（383 人）、医療系（医療・メディカル／介護／福祉）が 19%（323 人）の順となっている。さらに「事務系職種（オフィスワーク）」15%（257 人）、「技術系（建築設計・土木・プラント・設備）」15%（253 人）および「技術系（素材／化学／食品／その他）」が 15%（252 人）と続いている。

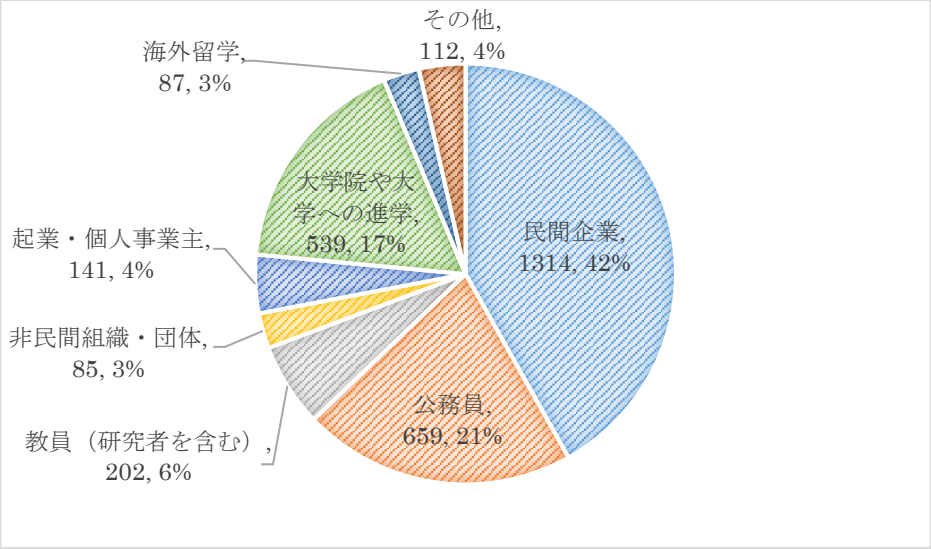


図 6　卒業後の志望進路(複数回答)

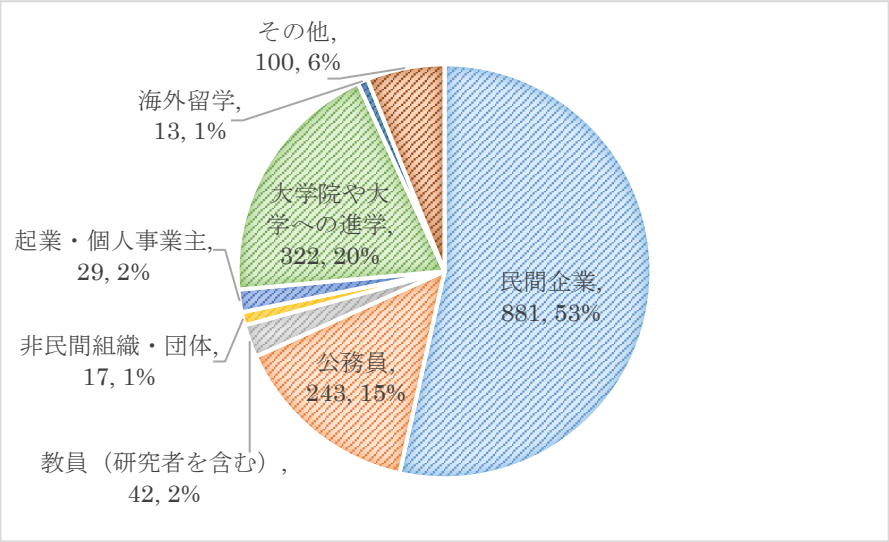


図 7 卒業後の志望進路(第 1 志望)

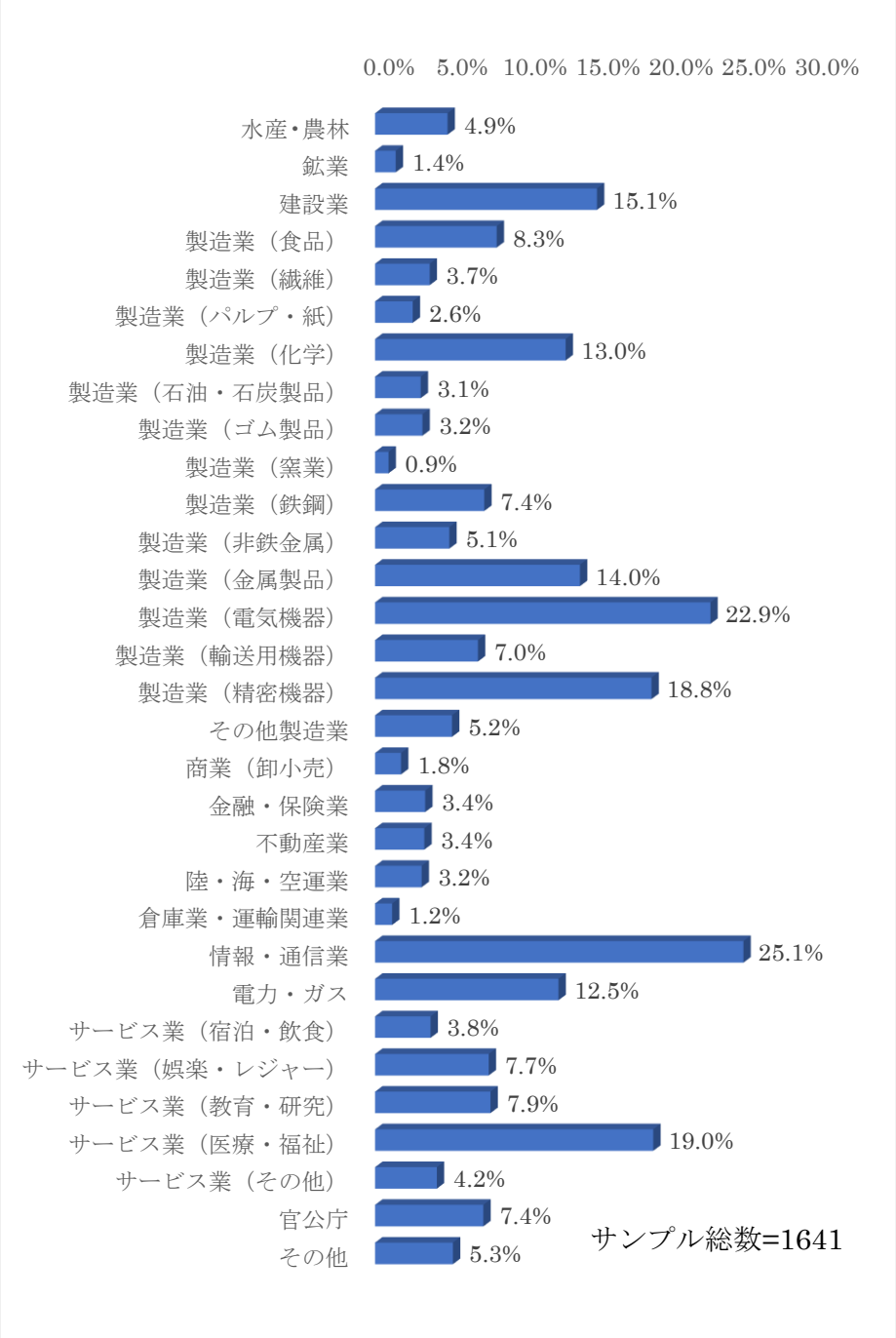


図８　卒業後の就職先志望業種（複数回答）

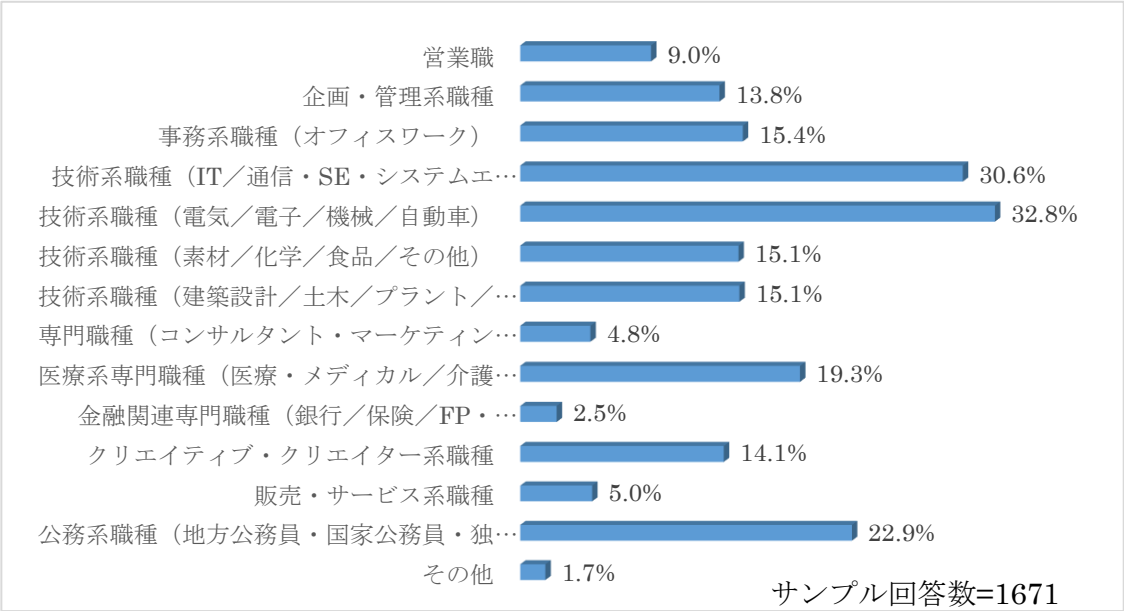


図 9　卒業後の就職先志望職種（複数回答）

図 10 は就職を希望する企業等の従業員規模に対する回答である。これによると「特にこだわりがない」との回答が 53%となっており最も多い。続いて「301 人～1,000 人の中堅企業」の 21%、「1,000 人を超える大企業」18%の順となっている。希望する勤務地については、図 11 に示すとおりである。これを見ると「北海道（札幌圏）」が 41%と最も多く、続いて「希望する地域がない」が 28%、「首都圏」が 18%の順になっている。これに対し「北海道（札幌圏以外）」は、わずかに 5%に過ぎない。

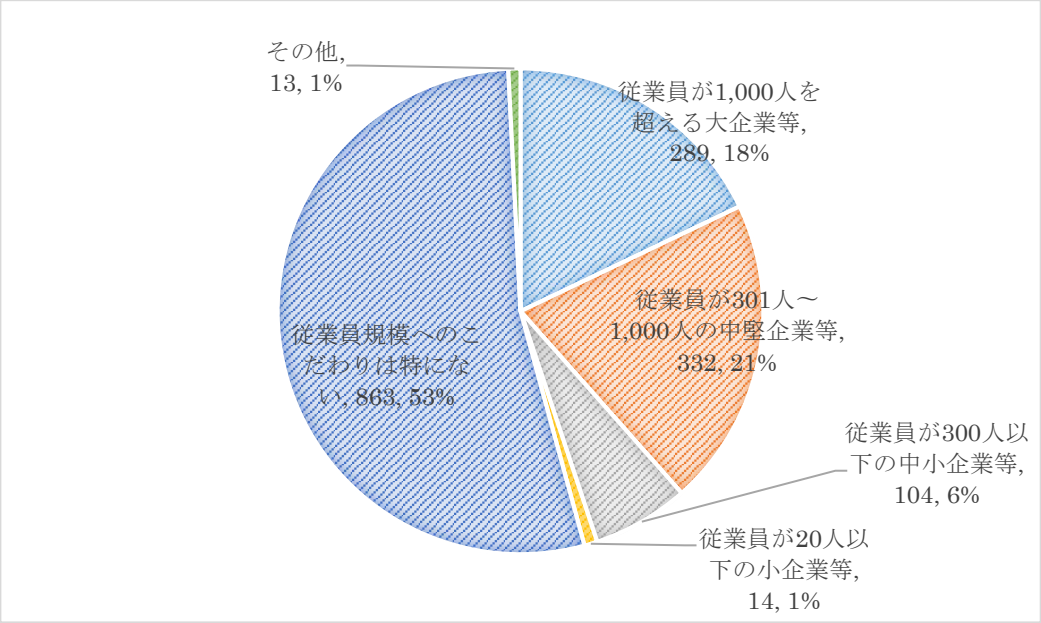


図 10　希望する企業等の従業員規模

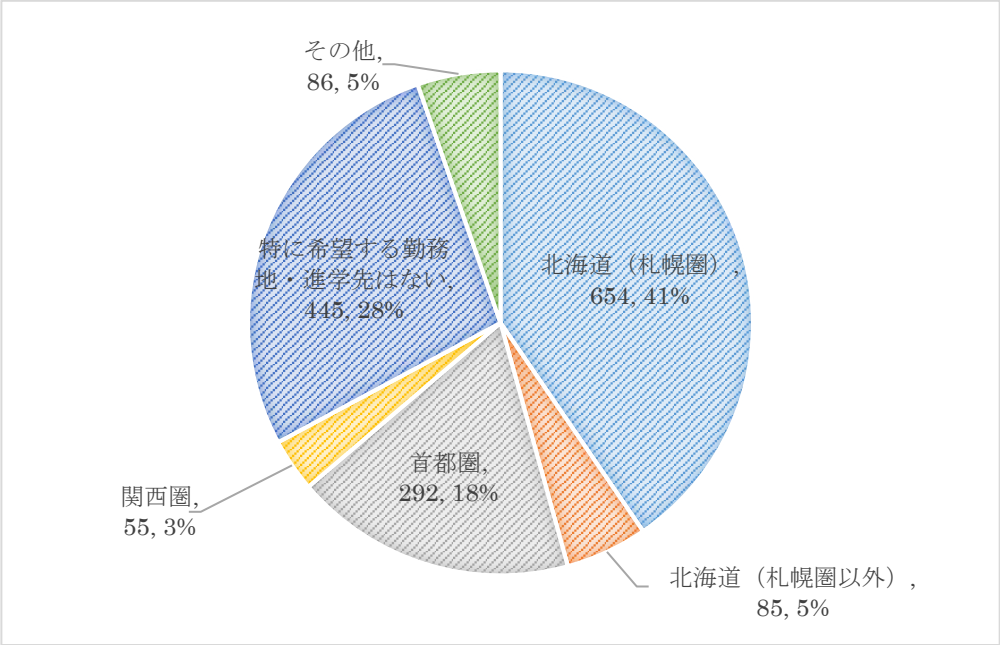


図 11　希望する就職先の地域

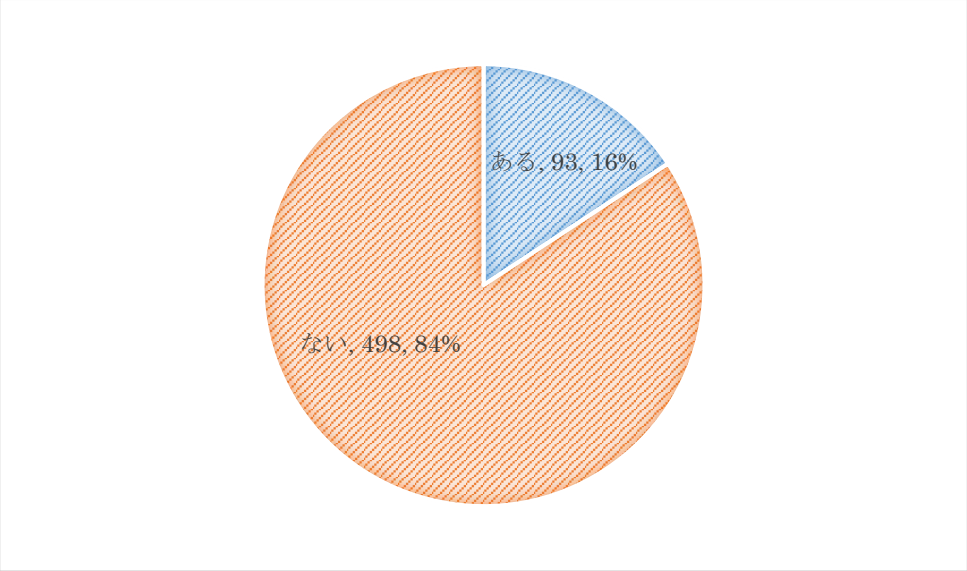


図 12　地域社会を学ぶ講義前後の勤務地等の変化(室蘭工大のみ)

図 12 は、今年度から室蘭工業大学で行われた地域社会を学ぶ講義の前後における勤務地についての考え方の変化があったかどうか問いに対する回答である。これによると「考え方に変化があった」との回答は全体の 16%であった。

(3)．就職に対する基本的考え方

図 13 は志望企業を決める際に重視することについて尋ねたものである。この図は、優先度の高い順に 3 位までの延べ数をまとめたものである。これによると「給与など経済的条件」（延べ 60%、1010 人）、および「勤務時間、休暇などの職場環

境」をほぼ同数（延べ 59%、1000 人）で最も重視、次に「職種」（延べ 48%、802 人）の重視がランクされる。図 14 は重視するものの第 1 位に着目したものであるが、こちらのランクでは「職種」の重視が最も多く（23%、392 人）、次に「勤務時間、休暇などの職場環境の重視」が高い度合（21%、351 人）となっている。次に「給与など経済的条件」重視（16%、276 人）、「勤務地」重視（13%、217 人）と続いている。全体では「給与など経済的条件」が高い評価がなされているが、重視するものの第 1 位として見るとやや低い評価となっている。

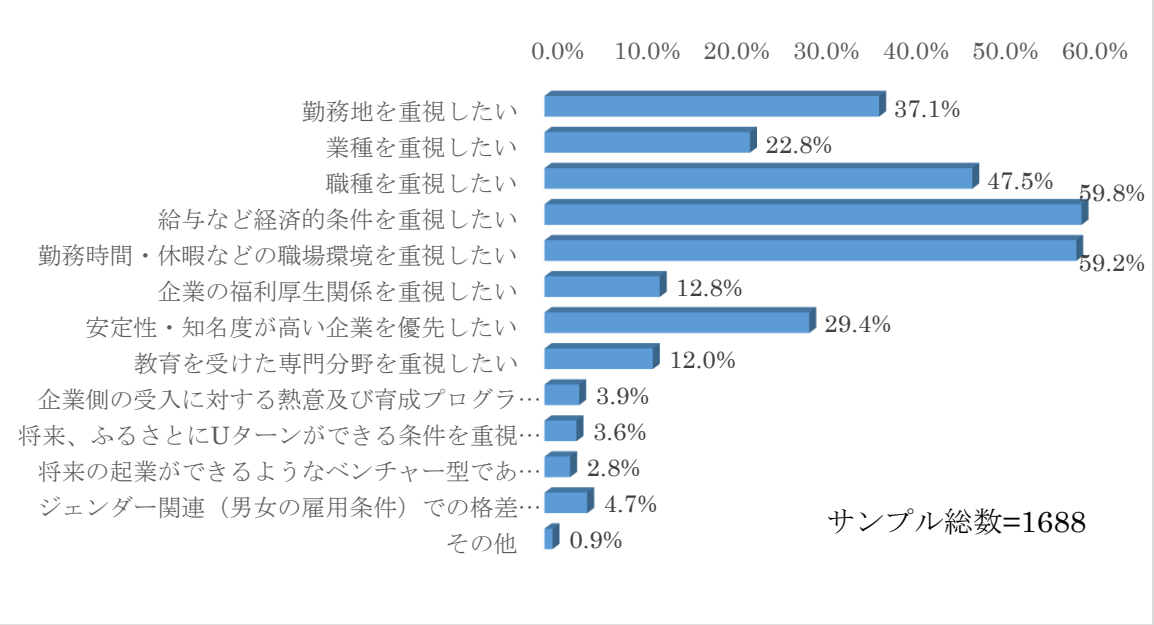


図 13　志望先決定に関しての重視項目（全体：複数回答）

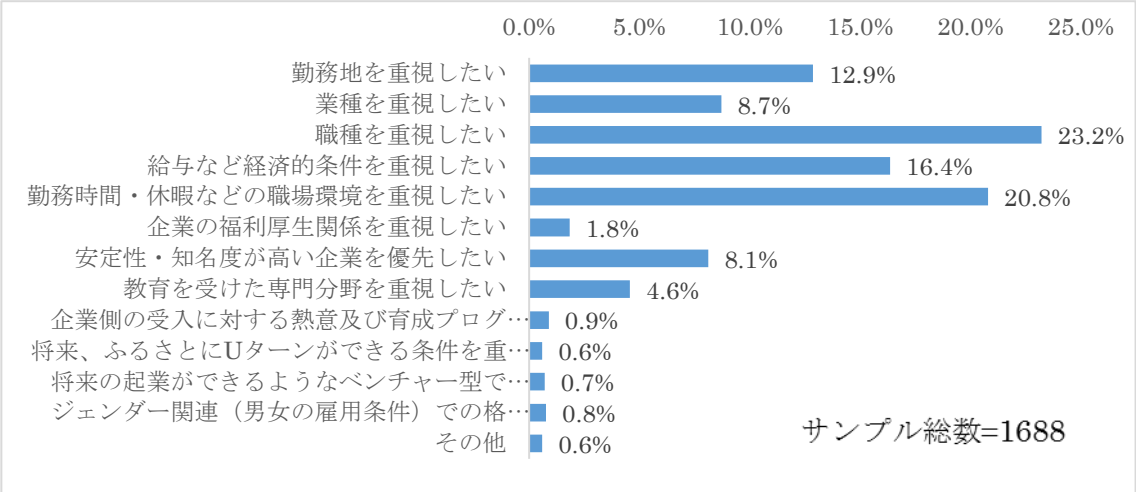


図 14　志望先決定に関しての重視項目（第 1 位）

次に就職先地域選定にあたって、重視する項目についての質問を行なったが、その結果は図 15 に示されるようになる。それを重視度が高い順に示したのが図 15-1 から図 15-14 である。まず最も重視度が高いのは【自分を活かせる職種・業種の企業がある】(図 15-1)の項目であり、かなり重視、やや重視を含めて、84%が重視すると回答している。次に【居住（生活）環境が良い】(図 15-2）への回答 83%であり、【生活するための経済的負担が少ない】(図 15-3）への回答は 82%である。これら 3 項目が 14 項目の中で最も高い重視度のランクとなっている。さらに【将来の家庭生活設計が立てやすい】(図 15-4）が 77%、【企業の教育環境が充実している】(図 15-5）が 76%、【転勤が少なく、あっても近くである】(図 15-6）が 63%、【自分の挑戦や冒険心がかなえられる】(図 15-7）と【先端的情報や刺激が多く入手できる】(図 15-8）が 58%～59%と続いている。

一方【地域的支援がある】(図 15-9)が 46%、【規模が大きな（有名な）企業がある】(図 15-10)が 45%、【企業誘致が積極的な地域である】(図 15-11)が 34%、【北海道の将来に夢が持てる】(図 15-12)が 31%、【親元（近く）で生活や仕事ができる】(図 15-13)と【友人・知人（先輩）等と一緒に仕事ができる】(図 15-14）が 28%～29%と相対的に低い値となっている。

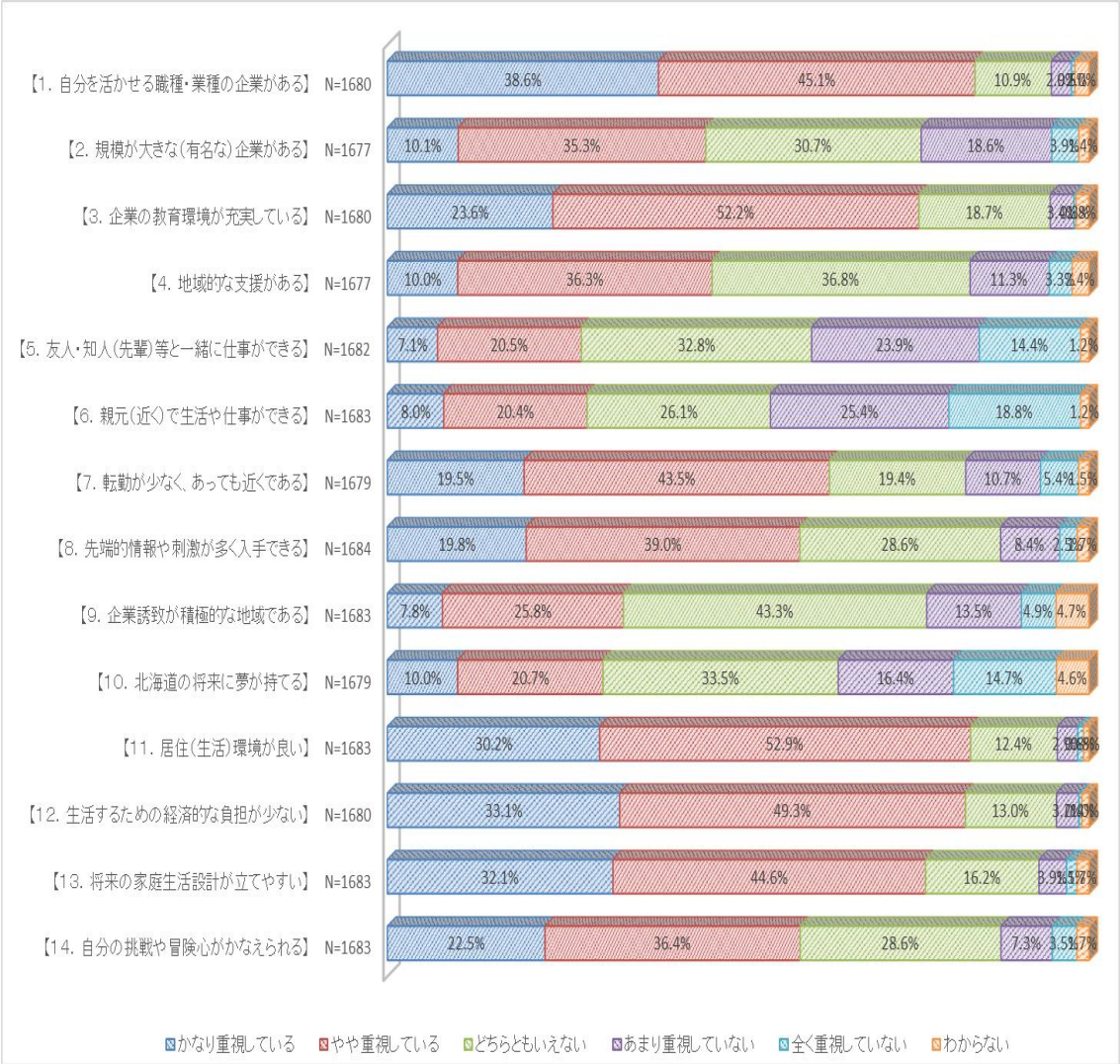


図 15　地域選定に関する項目の重要度

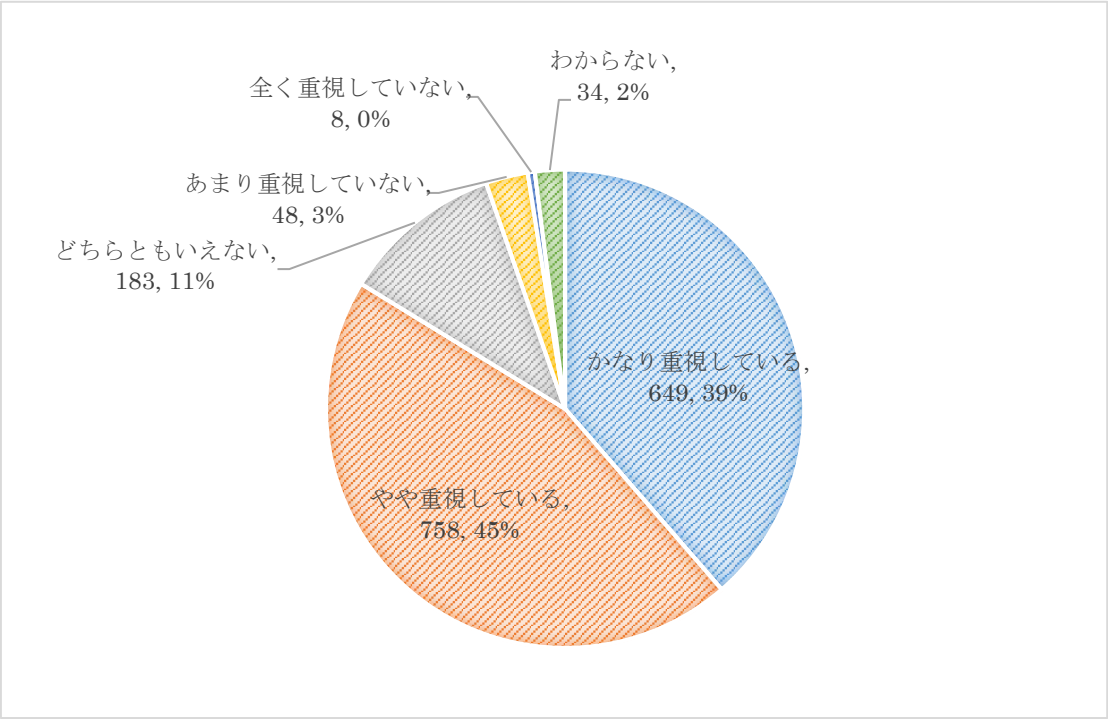


図 15-1　地域選定に関する項目の重要度
【自分を活かせる職種・業種の企業がある】

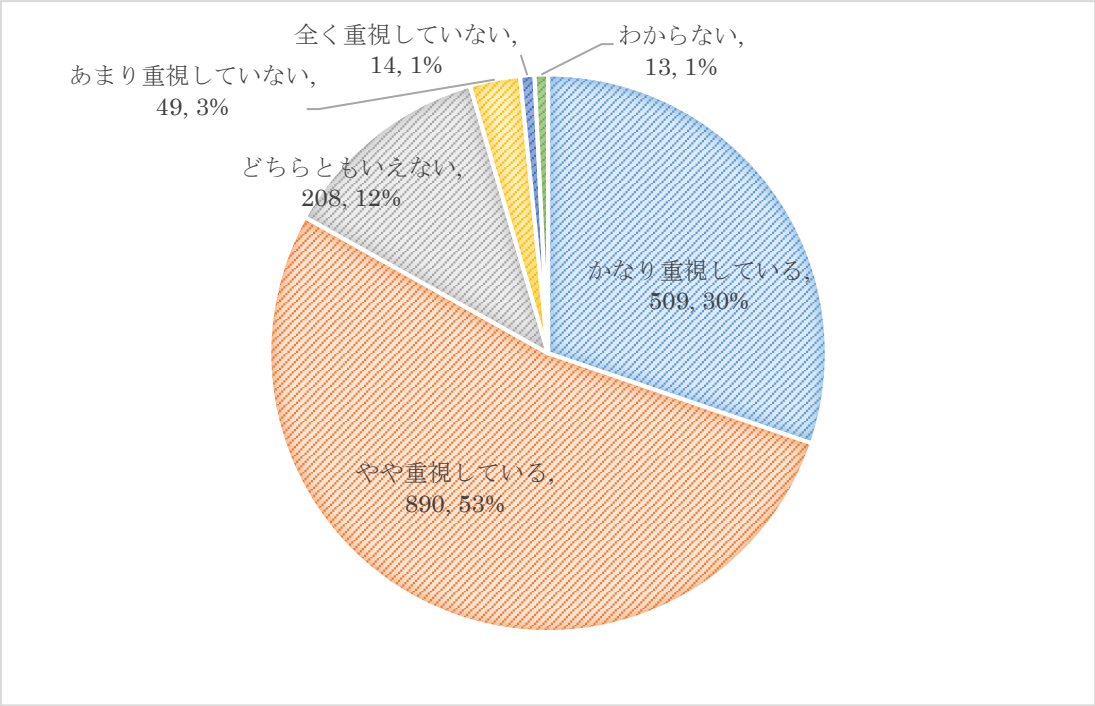


図 15-2　地域選定に関する項目の重要度
【居住（生活）環境が良い】

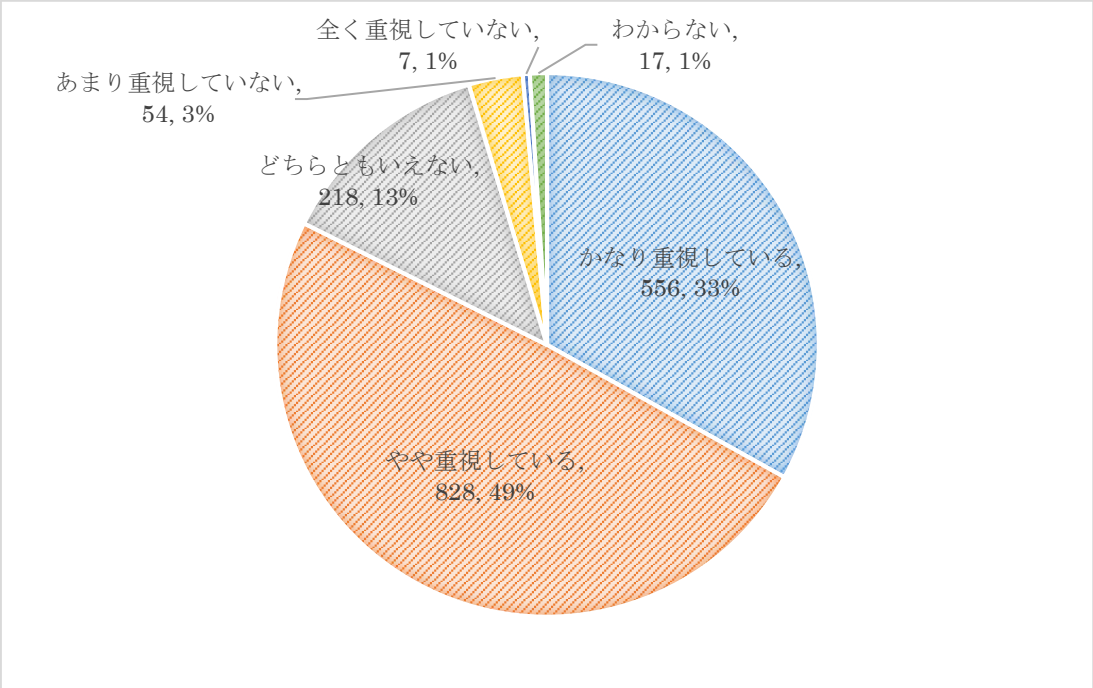


図 15-3　地域選定に関する項目の重要度
【生活するための経済的な負担が少ない】

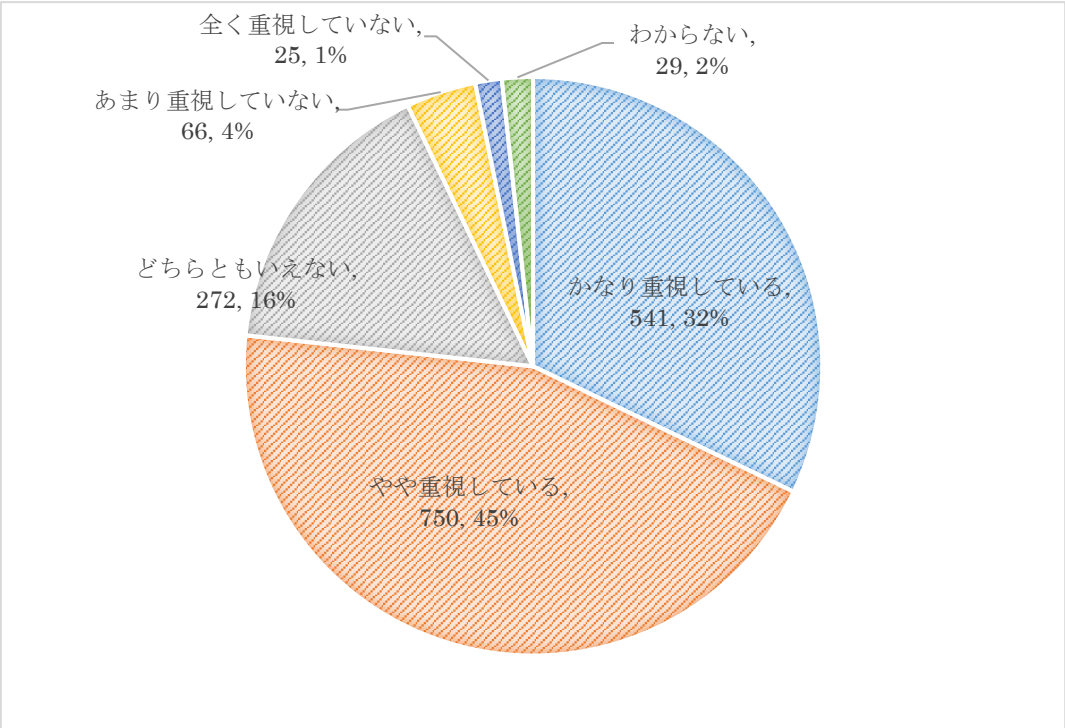


図 15-4　地域選定に関する項目の重要度
【将来の家庭生活設計が立てやすい】

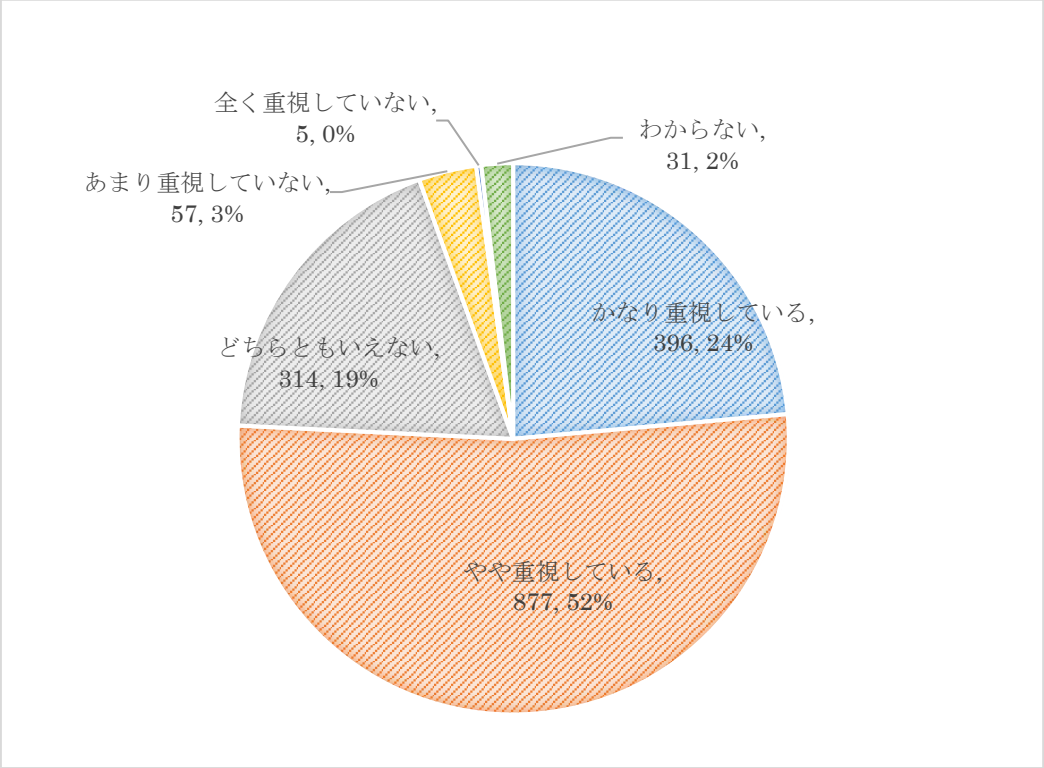


図 15-5　地域選定に関する項目の重要度
【企業の教育環境が充実している】

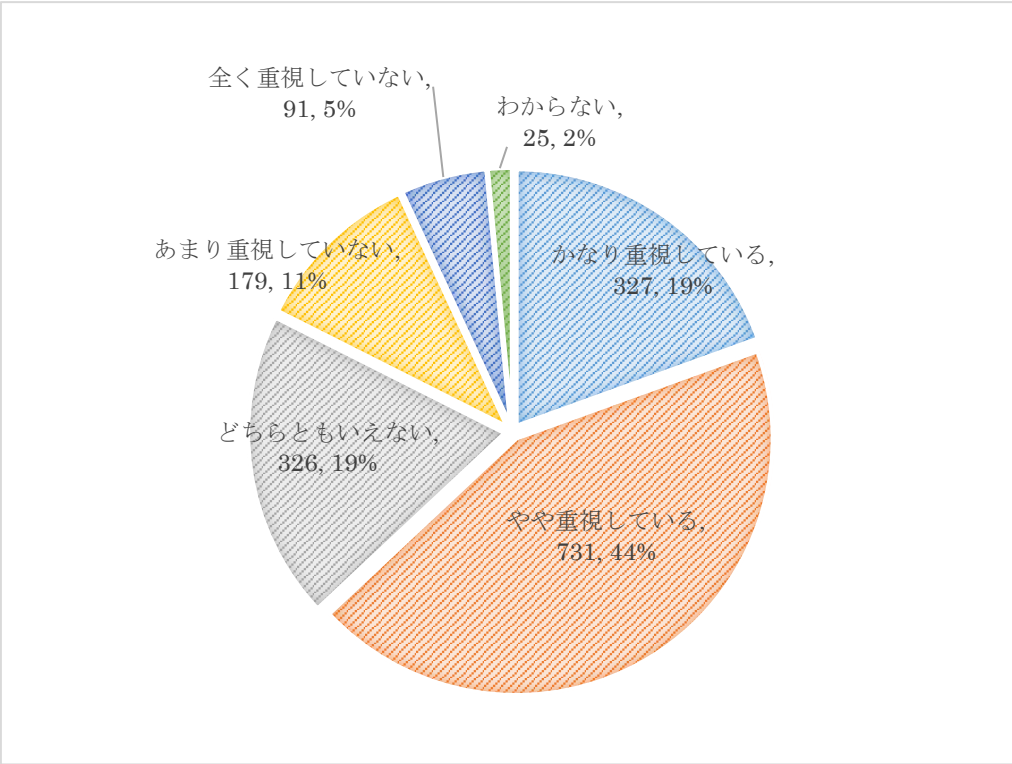


図 15-6　地域選定に関する項目の重要度
【転勤が少なく、あっても近くである】

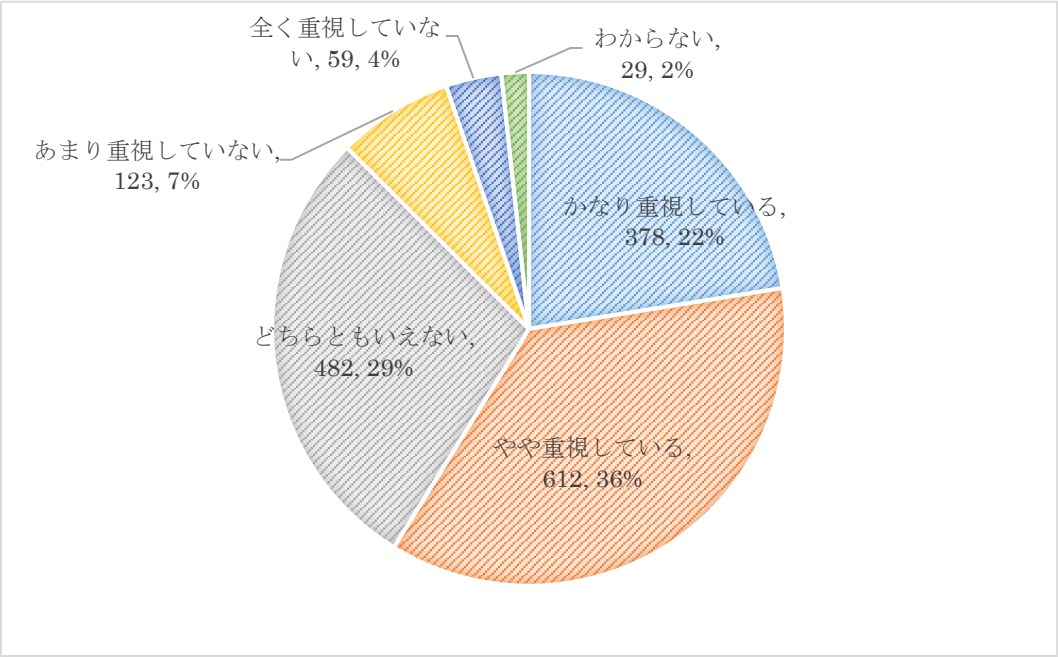


図 15-7　地域選定に関する項目の重要度
【自分の挑戦や冒険心がかなえられる】

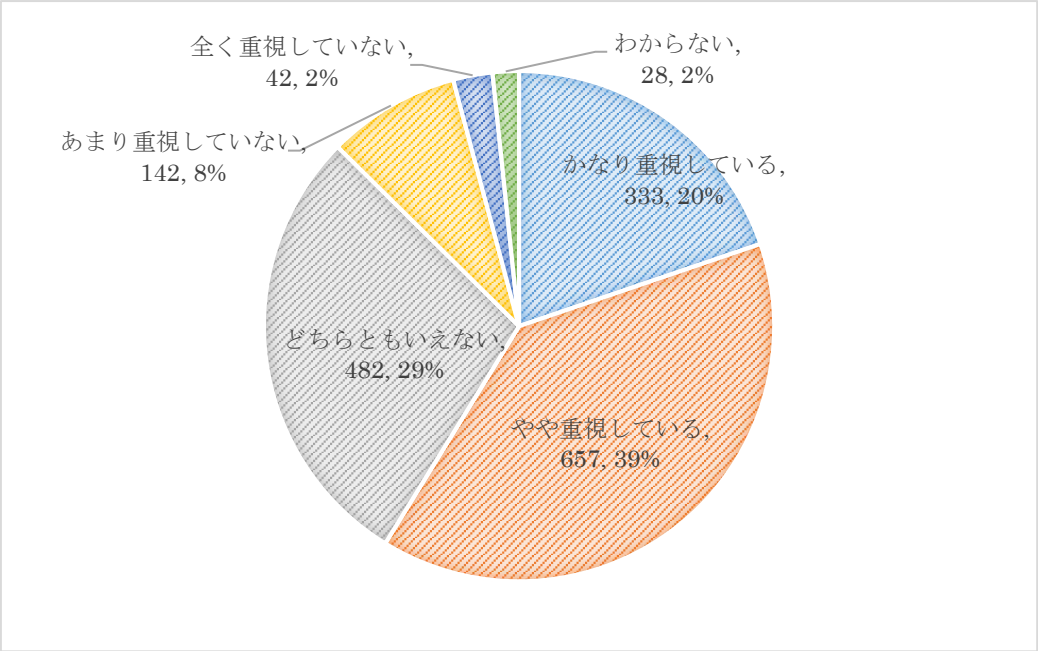


図 15-8　地域選定に関する項目の重要度
【先端的情報や刺激が多く入手できる】

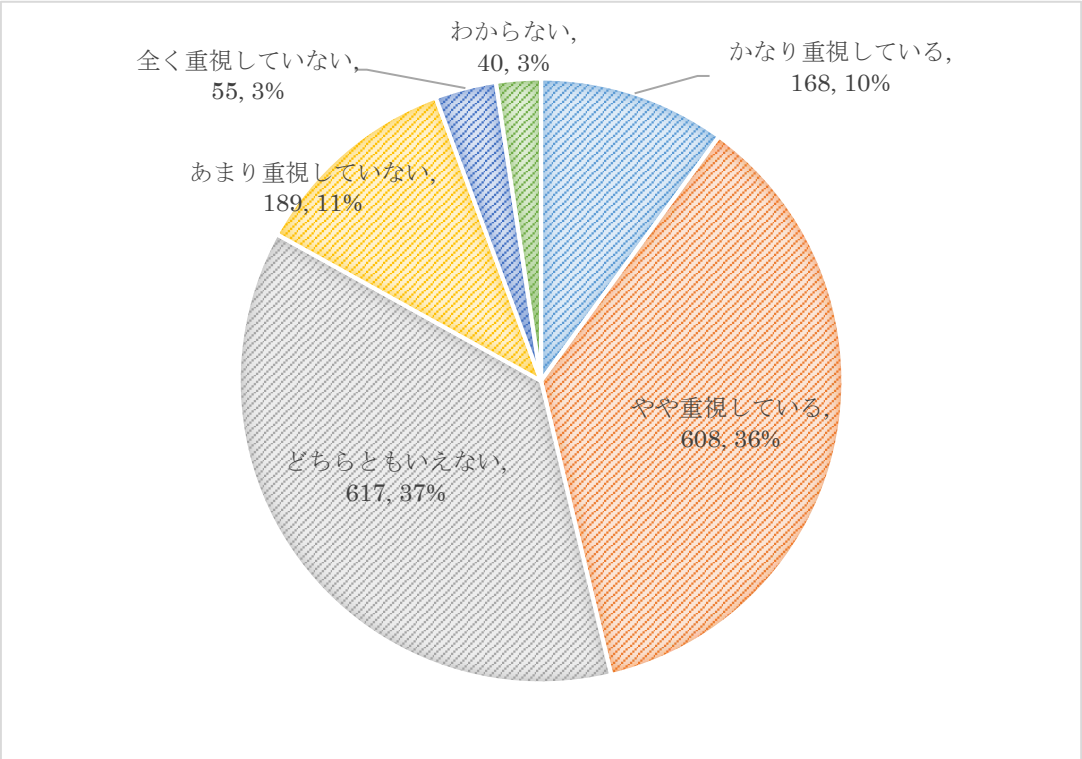


図 15-9　地域選定に関する項目の重要度
【地域的支援がある】

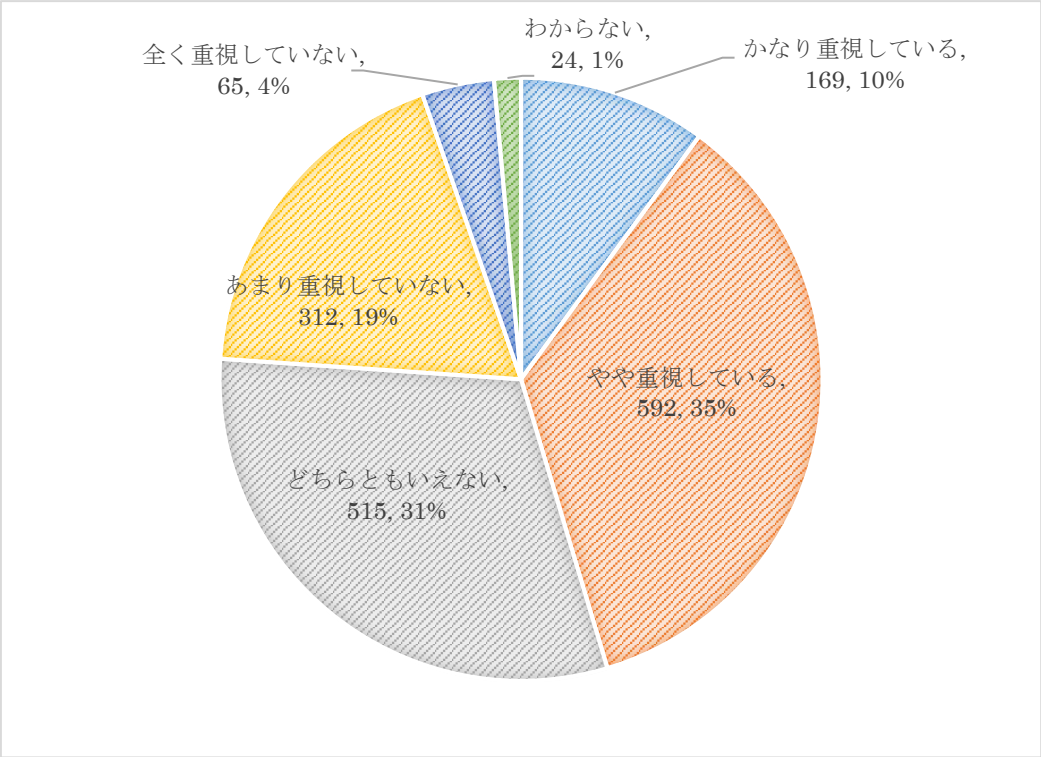


図 15-10　地域選定に関する項目の重要度
【規模が大きな（有名な）企業がある】

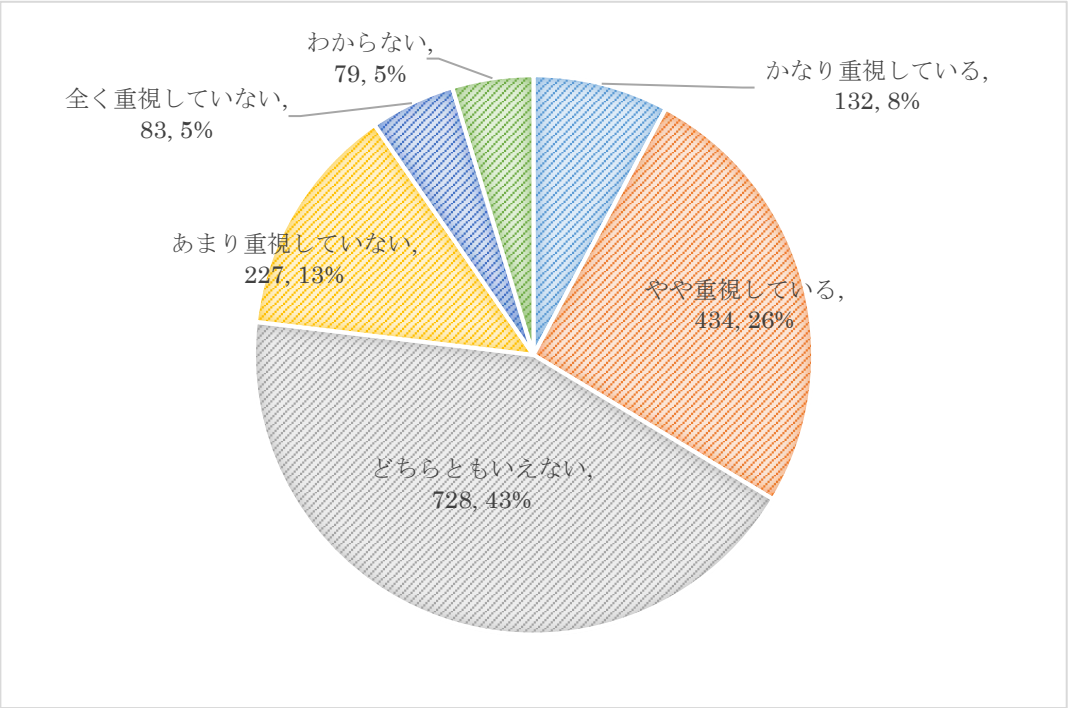


図 15-11　地域選定に関する項目の重要度
【企業誘致が積極的な地域である】

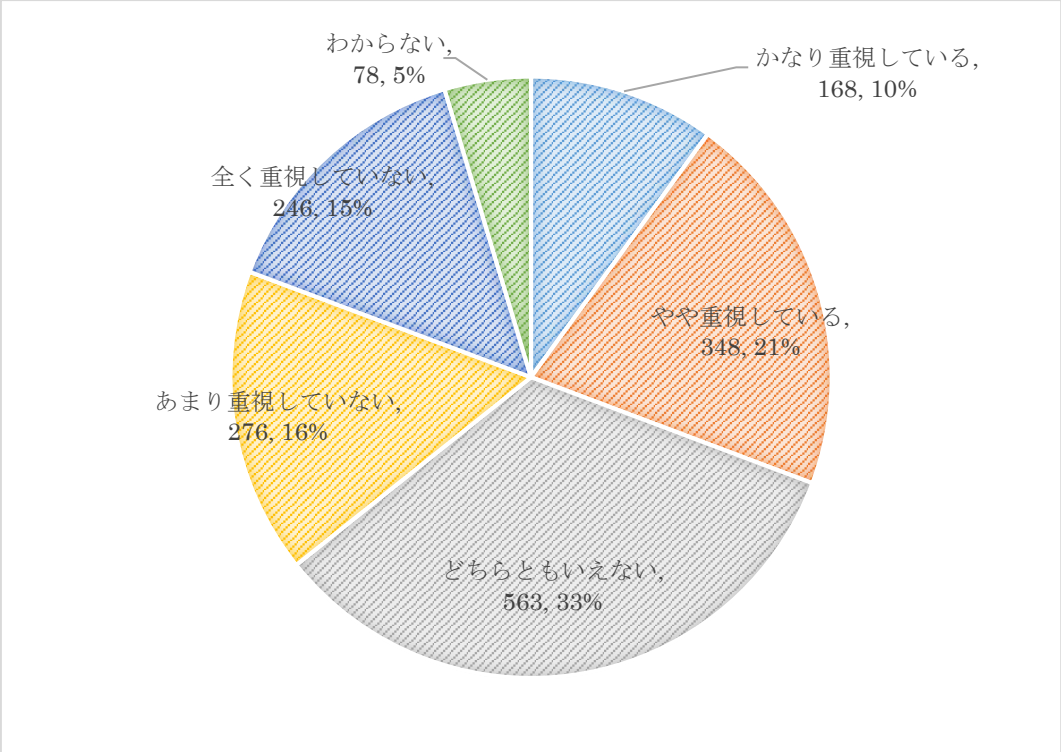


図 15-12　地域選定に関する項目の重要度
【北海道の将来に夢が持てる】

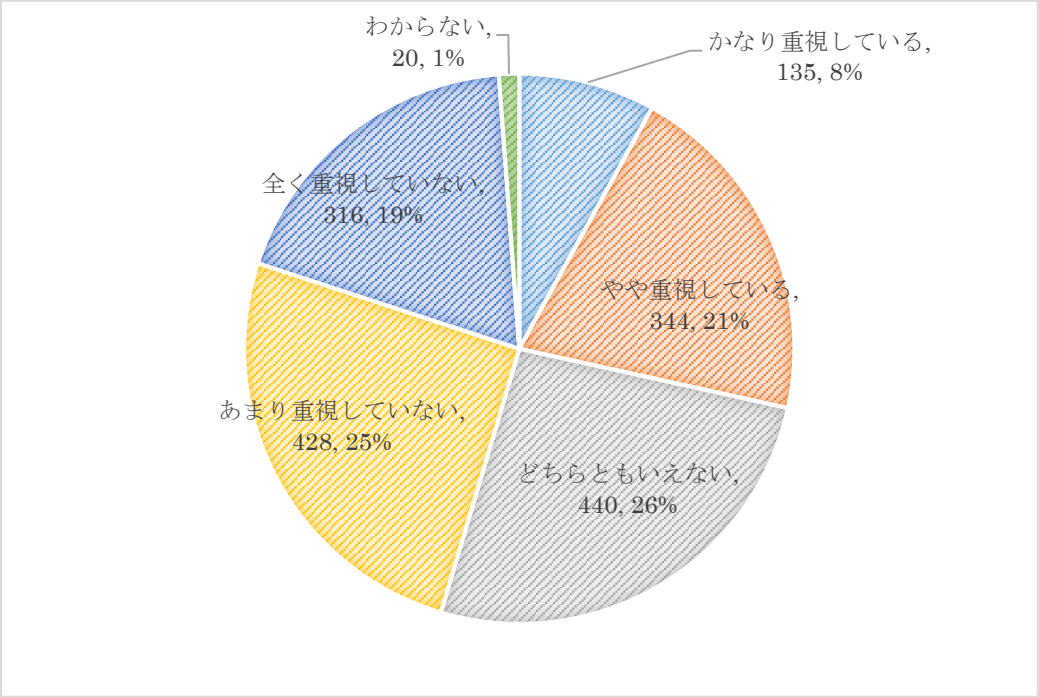


図 15-13　地域選定に関する項目の重要度
【親元（近く）で生活や仕事ができる】

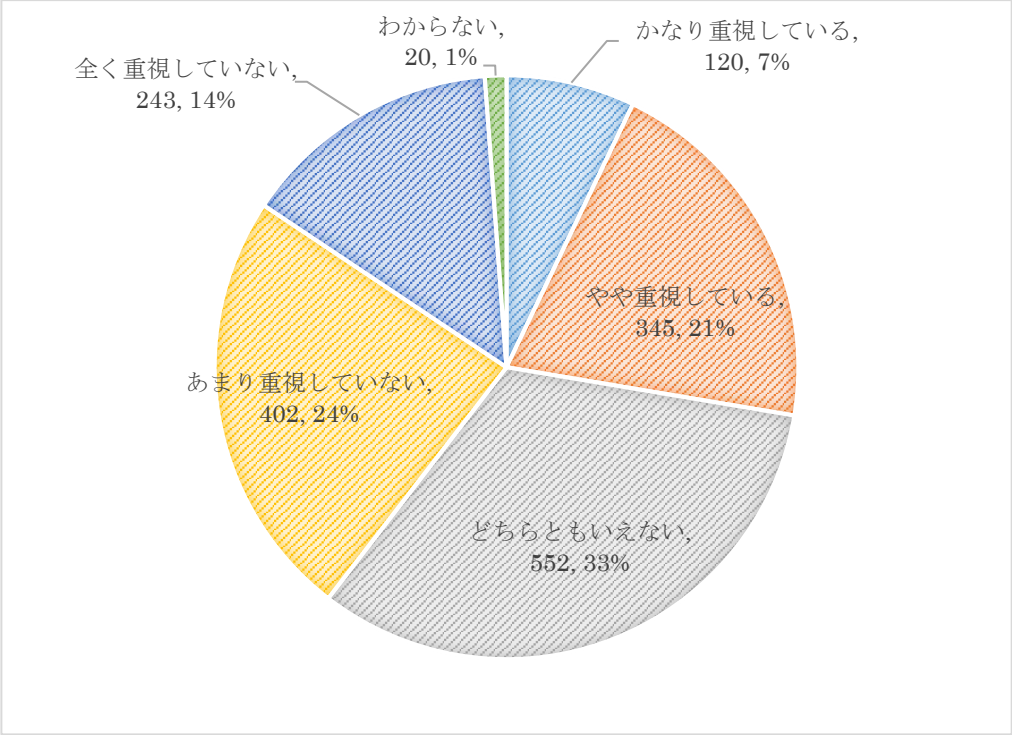


図 15-14　地域選定に関する項目の重要度
【友人・知人（先輩）等と一緒に仕事ができる】

(4)．将来の進路と道内企業への就職

図 16 は道内企業への就職に対する考え方に対する回答である。これを見ると、「優先的に考えている」との回答は 46%、「優先的ではないが、可能性はある」との答えは 38%となっており、ポテンシャルを含め道内企業への就職を強く意識していることがわかる。

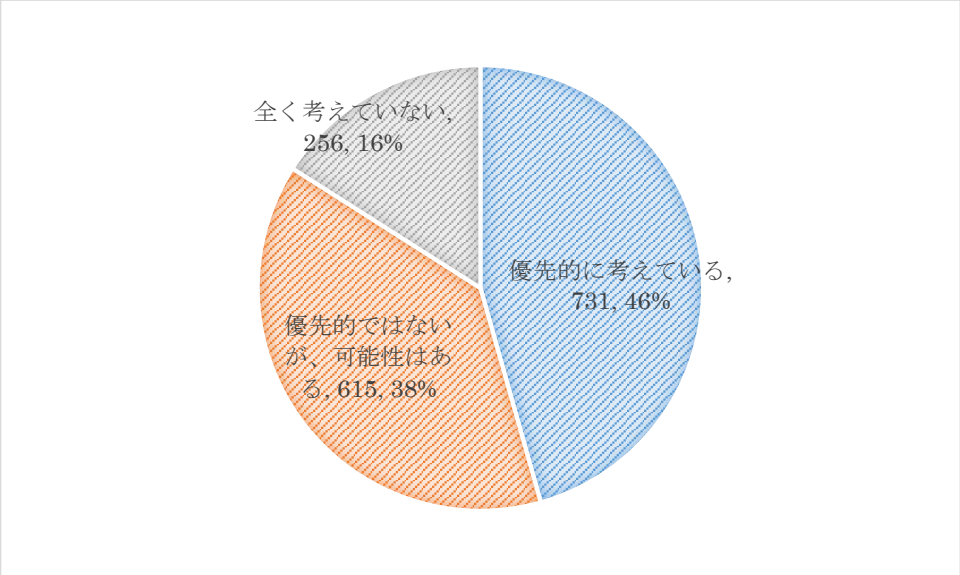


図 16　道内企業への就職希望について

そこで「優先的ではないが、可能性はある」と回答した学生にその必要な条件を確認したところさまざまあり、また条件を複数としている意見が多かった。また、地元(出身地)就職や気候的なことから道外就職を目指しているという意見も多かった。

まずは、多かった項目を順に列挙する。

- やりたい仕事（93 件）
- 給料が高い（81 件）
- 交通の便を良くする（39 件）
- 生活環境が整っていること（33 件）
- 休みが多い、休暇がしっかりとれる（22 件）
- 職場環境が良い、働きやすい（20 件）
- 安定した経済状況を形成できる（20 件）
- やりたい業種がない、求職企業を増やす（17 件）
- 北海道全体の経済的活性化（11 件）

等が挙げられる。最も多かった条件は「やりたい仕事」であり、「やりたい仕事」であれば地域は全く関係ないという意見が相当数あった一方、やりたい仕事かつ給料が高いといった意見もあり、一項目のみでは必要な条件となっていない場合も多く

あった。「給料が高い」については首都圏企業との比較をしているものが多く、首都圏並みや首都圏以上の給料という条件を出す学生も多かった。また、新聞紙面等で過酷な労働を強いられた報道があったことも影響しており、休暇等の労働条件についても関心が窺える。札幌以外では交通の便が悪く、店舗、医療機関等が少ないことの懸念から生活環境が整っていることが上位の意見として挙がっている。
積極的な意見としては、「北海道企業にしかないメリットを PR する」、「道内でしかできない実験・企画ができる企業を増やす」、「北海道を好きになること、地域を知ること」をすることによって、道内企業就職を考える条件になるのではという意見があった。消極的な意見としては、「道外での就職先が見つからなかったら」という意見が数件あった。道内企業が努力してできる部分とできない部分はあるが、まずは生活環境を整えるために寮、社宅等の整備や働きやすい職場環境を作るための工夫等を進めることが必要ではないかと思う。

(5)．就職活動への参加希望意識について

図 17 は、対象学生が将来の就職活動の際、企業説明会への参加意思について調査した結果である。これによると「ぜひ参加したい」および「できれば参加したい」という参加意思が 60%となっている。また図 18 は企業説明会の望ましい形式を聞いた回答である。これによると職種・業種ごと開催希望が圧倒的に多く、71%となっており、地域企業ごと 11%、全企業一括 8%を上回っている。

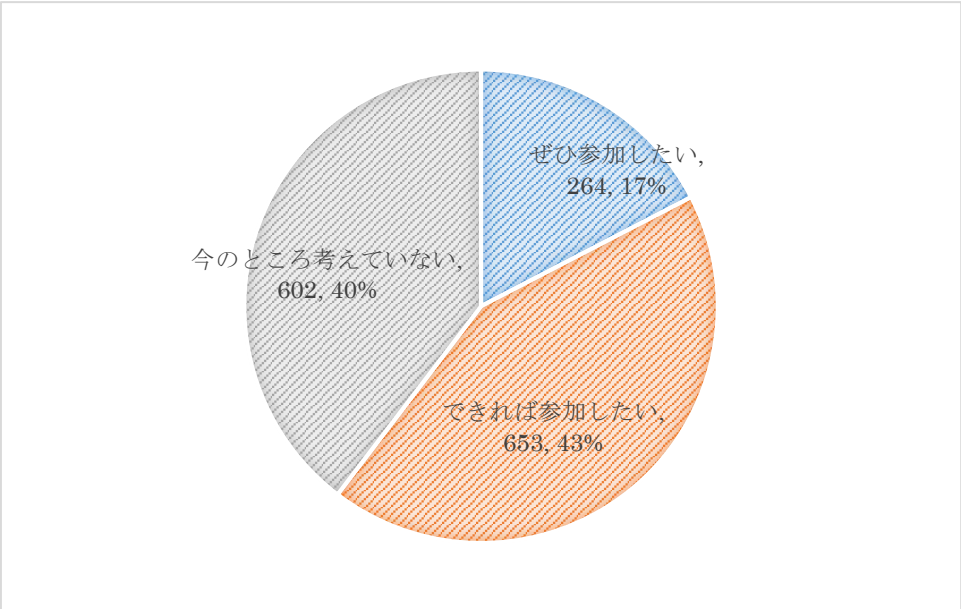


図 17　企業説明会への参加意思

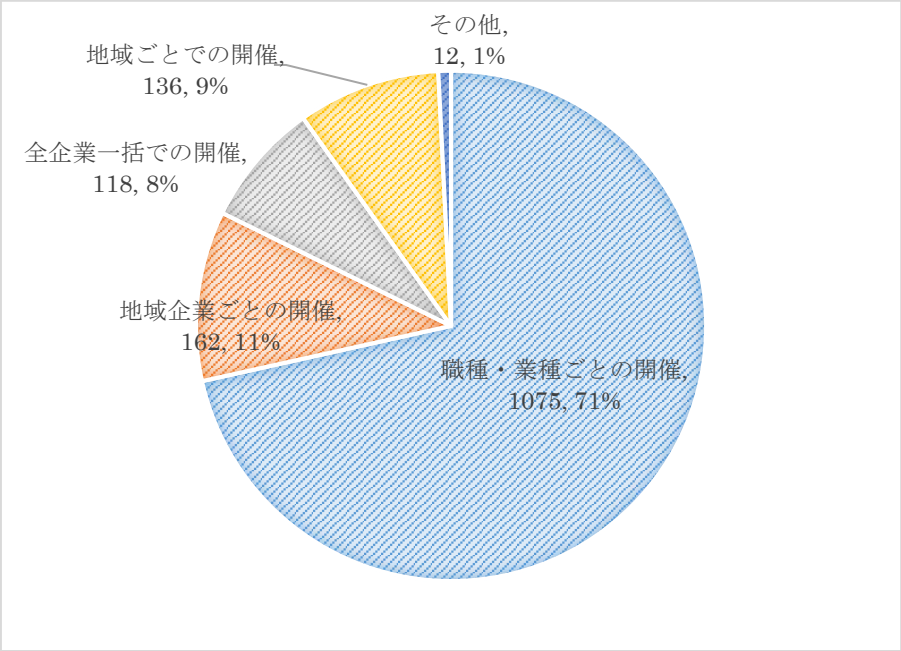


図 18　企業説明会の望ましい形式

そこで、COC＋プロジェクトで進める道内企業説明会について項目ごとに自由意見を集約した。

① 【開催場所】

表現は異なるが意見があった全て(5 件)で交通費のかからない場所での開催を希望していた。(例えば、「札幌開催だけでなく地方開催をしてほしい。」や、「学校開催をしてほしい」)

② 【望ましい形式】

上記図 18 の通り、「職種・業種ごと開催」が 71%あったが、その他の意見として以下の意見があった。就職の幅を広げるために、理系・文系の区別なく多くの業種を望む意見や、道内と道外の企業を見比べることが出来るように同時参加を望む意見、職種ごとを望む意見が出ていた。

③ 【説明内容】

意見としては最も多かった(36 件)。多かった順に整理をする。

- 企業の良い面だけでなく、悪い面(改善が必要な面)(5 件)。
- 企業説明だけでなく社員と対話(5 件)。
- 仕事内容のほかに給与(福利厚生)等の経済的条件(4 件)。
- 企業が求める人材(4 件)。
- 企業に入ってからの将来像(キャリパス)(4 件)

上記のほか、入社前に身につけたら良いこと、社員の普段の生活や、多くの企業を比べるため企業の強みを一目で分かるようにしてほしいとの意見があった。

④ 【その他】

1、2 年生にも開催してほしいや、早めに知りたいという意見のほかに、企業説明会参加によるインターンシップ、就職へのインセンティブがほしいという意見があった。

全体としてまとめると、【開催場所】は経済的負担を抑えるために近くで開催してほしい。【望ましい形式】は少数意見ではあるが多様な形式を望んでいる学生もいた。【説明内容】は企業の実状、採用されるための条件、入社後の生活等を確認したい、さらには社員等の対話を通じて確認したいという意見があった。

また、【その他】で企業を早めに知りたいという意見があった。仮にセミナー実施等を1、2 年生の時に行うことにより道内企業の学生への周知機会が増えれば、学生、企業双方にとって有益になるのではないかと思わる。

図 19 は、道内企業へのインターンシップの参加意思についての問いに対する回答である。これによると「ぜひ参加したい」および「できれば参加したい」を含め 67%が参加の意思があると答えている。図 20 はインターンシップの望ましい実施期間についての回答である。これによると最も多いのが「2 週間程度」で全体の 44%、次に「1 週間程度」が 30%となっている。

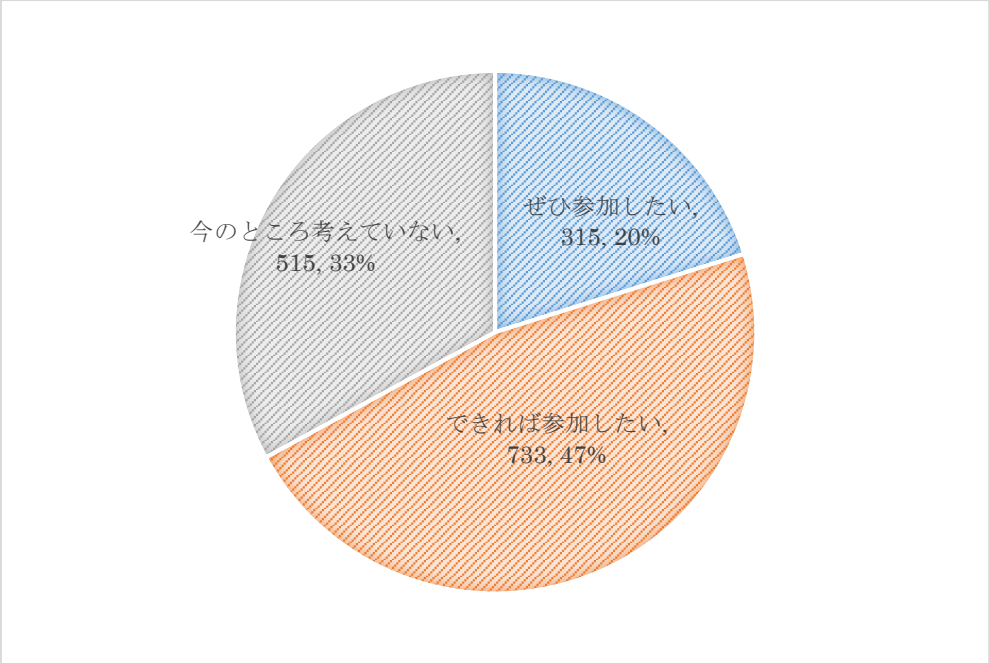


図 19　道内企業へのインターンシップの参加意思

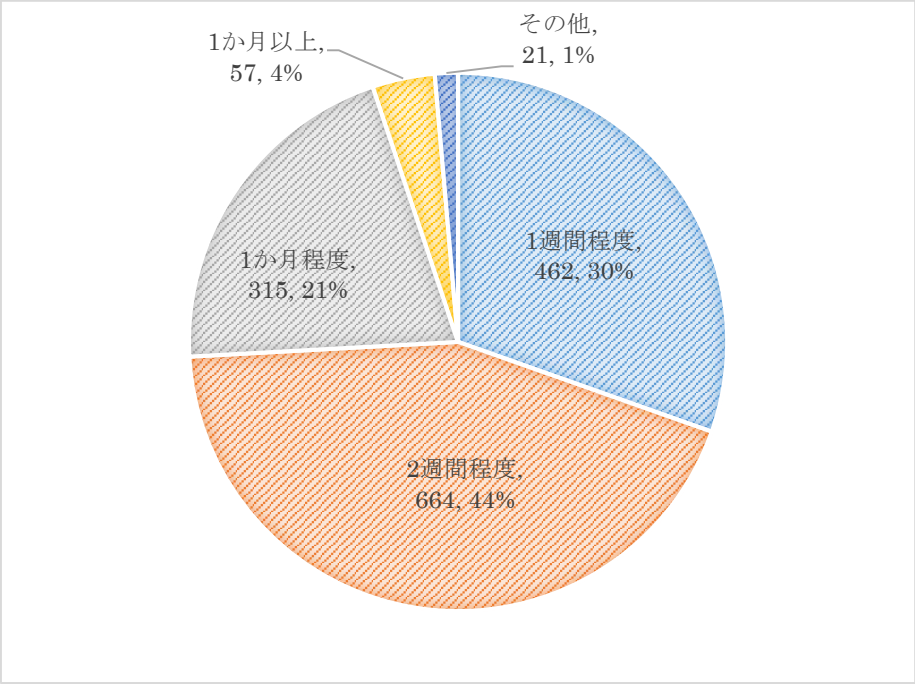


図 20　インターンシップの望ましい実施期間

図 21 は道内企業見学会への参加意思への回答をまとめたものである。これによると「ぜひ参加したい」および「できれば参加したい」といった参加意思は 71%となっている。図 22 は道内企業見学会の望ましい形式についての回答である。これによると、「複数の同業種の企業を対象に実施」を希望する回答が最も多く 51%と過半数に達している。また「1 回につき 1 つの企業を対象に実施」が次にあげられ、23%となっている。さらに「複数の異業種の企業を対象に実施」も 17%の回答があった。

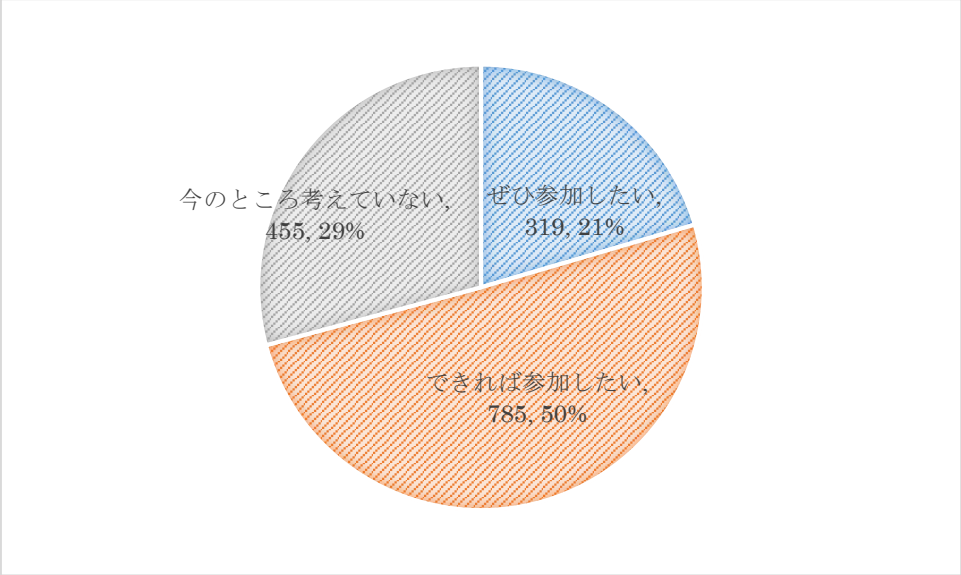


図 21　道内企業見学会への参加意思

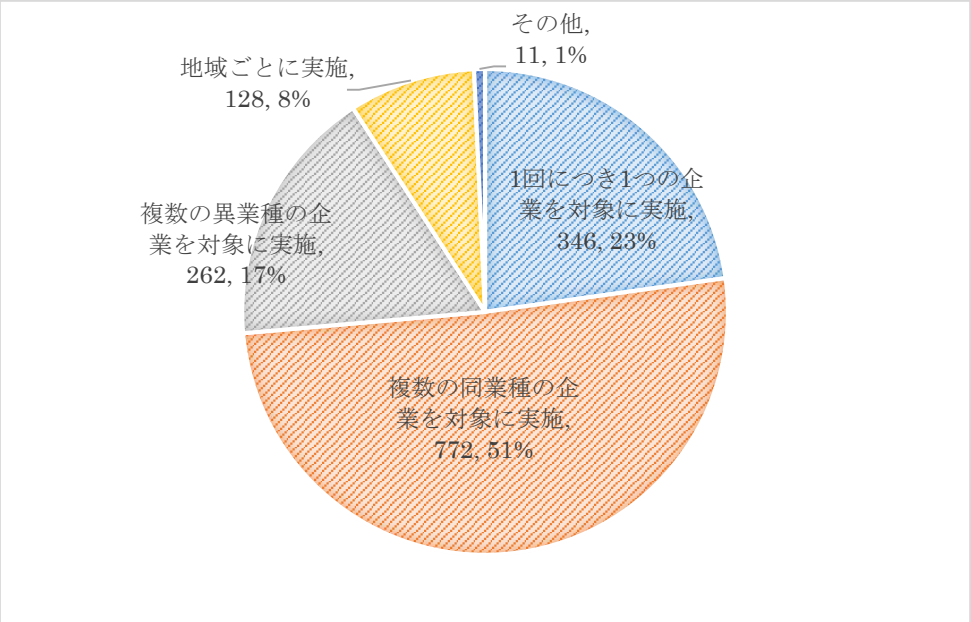


図 22　道内企業見学会の望ましい形式

図 23 は、経営トップの考えを聞く機会についての問いに対する回答である。これによると「ぜひ参加したい」および「できれば参加したい」という参加意思が 62%である。

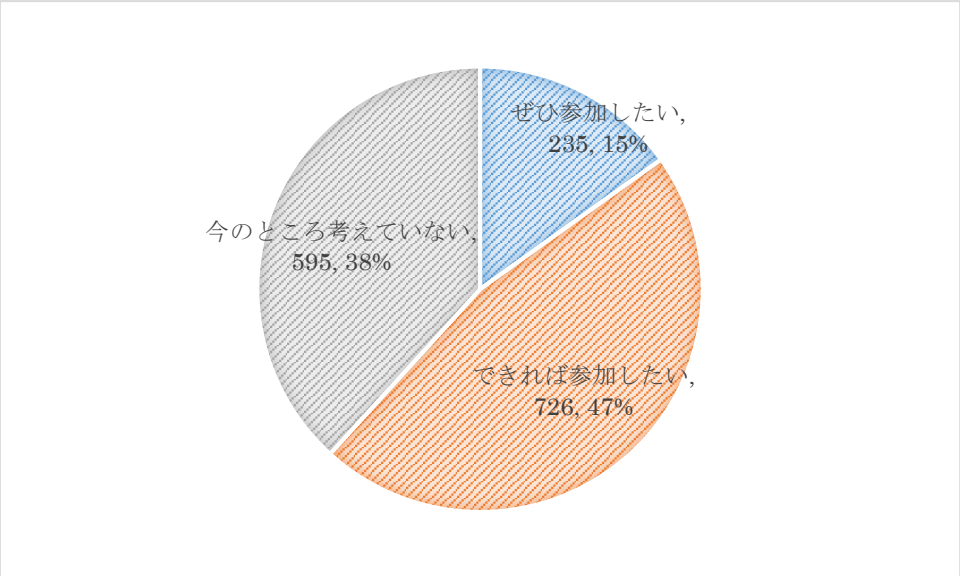


図 23　経営トップの考えを聞く機会への参加意思

次に新卒採用をする道内企業について意見を聞きました。
雇用が少なく、雇用を増やしてほしい（9 件）、都会との格差是正をしてほしい（9 件）が最も多かった。格差については給与が最も多く（5 件）、生活のしやすさ、意

識・知識の差、立地環境等が挙げられた。また、道内企業の新卒者への教育、研修について不十分（6 件）、学生への PR 不足（6 件）と続いている。その他、下請けが多いので企業規模を拡大してほしい、理系企業（職種）が少なすぎる、労働条件の改善をしてほしい、職場環境を良くしてほしい等の意見があった。また、潜在的な意識とは思われるが、安定面に不安がある、ブラック企業が多い等の意見があった。

道内企業については総じて消極的な見方がされている。規模は小さく、労働条件も悪く、不安定だといった先入観がある。また、PR 不足との意見もあり、上記の間違ったイメージを早期に払拭することが必要と思われる。また、都会との格差等で改善が困難なものについても目を背けないで、学生にしっかりと説明し、理解をしてもらい、さらにそれを超える魅力を発信することが必要である。『道内企業特有の良い点を出し、学生に興味を持ってもらうようにする。』、『道内企業に就職した卒業生の仕事ぶりを聞きたい。』、『人口減少、過疎化に対する考え、将来設計を説明してほしい。』といった意見があり、学生に聞く姿勢があることから、道内企業の魅力を発信するような努力が必要である。

また、道内企業に限ったことではなく企業全般に対して（と思われる）以下のような意見があった。採用判断について人物ではなく出身校（道外有名大学等）を重視している。企業が無意識に性差別をしている。ブラック企業の情報が氾濫しているため、企業の労働者の扱い方を示してほしい。

最後に就職全般に対して学生の考え方を確認した。そこには様々な不安があることが分かった。

- なりたい職業が分からない
- 自分に適した職業が分からない
- 就職活動が分からない（いつ始めるのか、誰と相談するか）
- 入社後の将来が分からない
- 安定収入（生活）を得ることができるか不安

と、分からないことだらけでありそれが不安となっている。そのため、「たくさんの情報がほしい」や、「情報収集の方法を教えてほしい」、「１、２年生から情報を入るようにしてほしい」という意見が出ていた。また、最近ニュース等で報じられていることもあり、いわゆるブラック企業に対する不安があることも見逃せない。そのほか、「女性が働きやすい職場を見つけられるか不安」、「すぐ辞める社員が多い理由を教えてほしい」、「専門以外の職種への就職が可能か」といった意見があった。

(6)．単純集計結果のまとめ

以上の検討について単純集計結果として、とりまとめる。

① 対象学生全体での出身地は、道内が多く 3/4 を占めている。その中でも札幌市が突出しており、約半数近くの 48%に達している。また旭川市、小樽市、江別市、北見市、函館市、室蘭市の順に出身学生が多くなっている。また道外出身の学生は 24%であるが、都道府県別にみると愛知県が最も多く、青森県、岩手県、静岡県、東京都と続いている。こちらの場合は、全国的に広範に分布していることがわかる。

② 対象学生の志望進路について民間企業が最も多く、次が公務員となっている。また大学院を中心とした進学の比率も高くなっている。さらに大企業就職の希望より中堅企業就職が上回っている。従業員規模にこだわりはないといった考え方が過半数に上ることを見ても、企業の大きさは希望就職には強い影響をしていないことも分かった。北海道地域での就職希望は、インターンシップ経験者の場合の回答より札幌圏および道内への比率が高くなっている。

③ 志望先決定に関しての重視項目は全体として、給与などの経済的条件、および勤務時間・休暇など職場環境に対しての重視が高い評価となっている。また次に重視する項目としては職種が挙げられている。特に第 1 位の項目としては職種が挙げられている。

④ 就職先の地域選定に関する項目では、自分を生かせる職種・業種の企業があることが最も重要と答えている。また経済的負担がないこと、居住や生活環境が良いこと、さらに企業の教育環境の充実、将来の生活設計が立てやすいなどが重視項目としてあげられている。一方友人関係や肉親関係等は、低い評価となっている。これらの結果は、インターンシップ経験者への調査とほとんど類似しているものとなった。

⑤ 道内企業への就職に対しては、ポテンシャルを含め高い割合で道内を意識していることがわかった。優先的に考えている考え方の強さはインターンシップ経験者の場合を上回る結果となった。

⑥ 道内企業の企業説明会、インターンシップ、および企業見学会、さらに経営トップの考えを聞く機会への参加意思は、ともに 2/3 を占める結果となった。これらのイベントに対しての期待の表れとも解釈される。

⑦ 企業説明会の内容については、職種・業種ごとの開催をもとめており、またインターンシップは２週間程度の期間が望ましいとの希望が最も多かった。また見学会の場合は、同じ業種の複数企業による実施が最も好ましという意見となった。

2.　平成 28 年度大学入学学生対象アンケート調査クロス集計分析結果

次に、これらの調査結果をクロス分析により相互の関係を中心に、より深く見ていくことにする。まず始めに、調査した 4 つの大学の学生の出身地を見てみることにする。表 1 は、それぞれの大学の学生の出身地を道内外別に整理したものである。ここでの帰無仮説は「2 要因には関連性はない」ということであるが、χ2 検定等で示されるように、仮説は棄却される。すなわち大学の違いによって出身地の違いが関連づけられる。ここでは、北見工業大学が道内に比して道外出身者が多いこと、一方他の 3 大学は、逆の結果が現れているといった違いがみられる。なおこれ以降の大学の名称は、室蘭工業大学は室工大、北見工業大学は北見工大、北海道科学大学は北海道科学大、千歳科学技術大学は千歳科技大を称するものとする。

表 1　大学別学生の出身地域（道内外別）

	各大学別×出身地			
χ 2値=1190.312>χ 2(0.95)=28.8693				
	道内	道外	(空白)	合計
室蘭工業大学	379	196	5	580
北見工業大学	104	152		256
北海道科学大学	662	50	1	713
千歳科学技術大学	135	14		149
(空白)	1		6	7
合計	1281	412	10	1704

(1)．志望進路と希望する勤務条件の関係

（ア）第 1 志望進路と希望する勤務地域の関係：表 2 は、対象学生の第 1 志望と希望する勤務地域の関係をみたものである。これをみると、ほとんどの就職先として道内の札幌圏を希望している。一方大学院等の進学の場合、地域を意識していないことがわかる。また次の希望地として公務員の場合、道内の札幌圏以外を、また民間企業の場合、首都圏を選択している。

表 2　第 1 志望進路と希望する就職先地域

	第1志望×	希望する就職先					
	χ 2値=133.4759>χ 2(0,.95)=55.7585			P値=0.0000			
	北海道（札幌圏）	北海道（札幌圏以外）	首都圏	関西圏	特に希望する勤務地・進学先はない	その他	合計
民間企業	366	34	151	30	229	35	845
公務員	101	30	22	6	56	17	232
教員（研究者を含む）	20	2	4	1	11	4	42
非民間組織・団体	9	1	2	1	2	1	16
起業・個人事業主	14	4	6	1	3	1	29
大学院や大学への進学	72	5	84	12	101	22	296
海外留学	2		3		4	3	12
その他	48	6	14	2	23	1	94
合計	632	82	286	53	429	84	1566

（イ）第 1 志望進路と志望企業の従業員規模：表 3 は、対象学生の第 1 志望と志望企業の従業員規模の関係を表している。これによると、どの職種においても規模への意識はあまり高くなく、ほとんどの学生は企業の規模へのこだわりがな

いことが明らかとなった。次に希望するのは、大企業よりはむしろ中堅規模の企業が好ましいと答えている。

表３　第１志望進路と志望企業の従業員規模

	第1志望×従業員規模						
	χ 2値=136.5717>χ 2(0.95)=49.8018			P値=0.0000			
	従業員が1,000人を超える大企業等	従業員が301人～1,000人の中堅企業	従業員が300人以下の中小企業	従業員が20人以下の小企業	従業員規模へのこだわらない	その他	合計
民間企業	148	202	63	8	410	4	835
公務員	30	38	15		151		234
教員(研究者を含む)	4	10	4		22		40
非民間組織・団体	1	3			12	1	17
起業・個人事業主	9	2	3	3	10	2	29
大学院や大学への進学	69	53	10	1	164	2	299
海外留学	7	2	1		3		13
その他	10	11	5	1	62	4	93
合計	278	321	101	13	834	13	1560

（ウ）第１志望進路と志望決定において重視項目：表４は卒業後の第１志望進路と志望決定時に重視する項目の関係を示したものである。これによると民間企業を決定する際は、職種が最も重視する項目として評価される。また公務員志望の場合、最優先重視項目として勤務時間・休暇など職場環境が挙げられた。次に多いのは、民間企業志望の場合、職場環境、公務員では職種重視であった。

表４　卒業後の第１志望進路と志望決定時の重視する項目（第１位）

			χ 2値=406.3698>χ 2(0.95)=381.8727				P値=0.0063								
	勤務地	業種	職種	経済条件	職場環境	福利厚生	安定性・知名度	専門分野	企業の熟意	Uターン条件	ベンチャー型	ジェンダー関連	その他	空白	合計
民間企業	109	69	217	131	201	18	74	30	7	6	2	6	1	10	881
公務員	36	13	49	45	53	5	28	7	2	1		2	1	1	243
教員（研究者を含む）	6	7	7	5	9		3	3	1				1		42
非民間組織・団体	2	1	5		5			1		1	1		1		17
起業・個人事業主	4	1	5	2	3		5				4	1	3	1	29
大学院や大学への進学	28	46	77	56	55	4	19	22	4	1	3	3	3	1	322
海外留学	1		2	5	2	1			1		1				13
その他	28	7	20	21	17	3	5	11		1	1	1		2	155
(空白)	3	1	4	4	1			1						1	15
	217	147	392	276	351	31	137	77	15	10	12	13	10	16	1704

表５は卒業後の第１志望進路と志望企業決定の際、重視する項目の優先度の高い順に３位までの延べ数をまとめたものである。民間企業志望の場合、経済的条件が最も高い項目となっており、次に職場環境が挙げられている。公務員志望の場合は、職場環境重視が最も高い項目となっており、次に給料などの経済的条件が挙げられている。いずれにしても、これらの項目は志望企業決定時に特に重要な項目として評価されている。

表５　卒業後の第１志望進路と志望企業決定時の重視する項目
（第１位から第３位の総計）

	χ 2値=268.6321>χ 2(0.95)=128.8				P値=0.0000										
	勤務地	業種	職種	経済条件	職場環境	福利厚生	安定性・知名度	専門分野	企業の熟意	Uターン条件	ベンチャー型	ジェンダー関連	その他	空白	合計
民間企業	329	205	422	535	528	109	255	79	38	32	22	36	2	51	2643
公務員	100	38	110	138	163	38	86	18	7	5	1	11	1	13	729
教員(研究者を含む	16	12	21	18	21	5	12	12	2	2	0	3	1	1	126
非民間組織・団体	4	5	9	9	6	4	4	5	0	2	1	1	1	0	51
起業・個人事業主	7	2	9	15	18	3	8	4	0	1	5	4	3	8	87
大学院や大学への	101	97	155	192	167	39	91	56	15	9	12	16	5	11	966
海外留学	3	3	5	6	9	2	5	1	1	0	3	1	0	0	39
その他	61	20	60	82	71	14	28	23	2	8	4	8	2	18	401
(空白)	5	1	5	7	12	2	4	3	0	1	0	0	0	5	45
合計	626	383	796	1002	995	216	493	201	65	60	48	80	15	107	5087

(2)．大学別の特性の分析

（ア） 大学別志望進路：表 6 は各大学での新入学生の将来志望進路についてまとめたものである。現在のところ、各大学とも民間企業志望が最も多く、次に室工大、北見工大では大学院等への進学、さらに公務員志望が続いている。北海道科学大では公務員志望が 2 番目となっている。ただし、千歳科技大学では、民間企業志望が圧倒的であることが特筆される。

表 6　大学別第 1 志望進路

χ 2値=376.3927>χ 2(0.95)=41.3371　P値=0.0000

	民間企業	公務員	教員（研究者を含む）	非民間組織・団体	起業・個人事業主	大学院や大学への進学	海外留学	その他	合計
室蘭工業大学	240	80	14	2	6	205	4	29	580
北見工業大学	109	54	4	1	4	77	2	5	256
北海道科学大学	422	100	11	14	17	30	4	117	715
千歳科学技術大学	110	9	13		2	8	3	4	149
不明						2		1	3
合計	881	243	42	17	29	322	13	155	1732

（イ） 志望する企業の規模：表 7 は、各大学別の志望企業における規模を問うたものである。

これによると、すべての大学で、「従業員規模のこだわりは特にない」との回答が最も多いことがわかった。室工大、北見工大は「大企業」、「中堅企業」が次の希望規模となっている。一方北海道科学大、千歳科技大は「中堅企業」が次のターゲットになっている。

表 7　大学別志望企業における希望企業規模

χ 2 値=111.8204>χ 2(0.95)=106.3948　P 値=0.0229

	従業員 1,000 人を超える大企業	従業員が 301 人～1,000 人の中堅企業	従業員が 300 人以下の中小企業	従業員が 20 人以下の小企業	従業員規模へのこだわりは特にない	その他	合計
室蘭工業大学	125	125	25	1	270	34	530
北見工業大学	45	45	7	2	140	17	256
北海道科学大学	102	118	59	11	384	39	713
千歳科学技術大学	16	42	13		67	11	149
不明	1	2			2		5
合計	289	332	104	14	863	101	1703

（ウ） 希望する勤務地域：表 8 は大学別の希望する勤務地域に対する回答である。室工大、北海道科学大および千歳科技大は「札幌圏を勤務地域とする」が最も多く希望している。一方北見工大は「特に希望する勤務地・進学先はない」が最も多い。また次に多いのは上記の 3 大学は「特に希望する勤務地・進学先はない」の項目であった。また北見工大の場合は、「首都圏」の項目であった。

表 8　大学別の希望する勤務地域

	χ 2値=152.1384>χ 2(0.95)=31.4104			P値=0.0000			
	北海道（札幌圏）	北海道（札幌圏以外）	首都圏	関西圏	特に希望する勤務地・進学先はない	その他	合計
室蘭工業大学	181	22	112	24	159	82	580
北見工業大学	47	11	64	18	80	36	256
北海道科学大学	359	45	99	10	157	43	713
千歳科学技術大学	67	7	16	2	46	11	149
不明			1	1	3		5
合計	654	85	292	55	445	172	1703

（エ）志望企業決定で重視する項目：表 9 は大学・高専別の志望企業決定の際、重視する項目について優先度の高い順に第 1 位から第 3 位までを加算したものである。これによると室工大、北見工大は同様な結果が現れており、「給料などの経済的条件」、「勤務時間・休暇などの職場環境」、「職種」の順に重視する項目が並んでいる。また北海道科学大、千歳科技大は「勤務時間・休暇などの職場環境」を重視する割合が最も高い。また次の項目としては、北海道科学大は「給料などの経済的条件」、千歳科技大は「職種」を選んでいる。全体的には、「経済的条件」「職場環境」を重視する傾向が高いことが明らかとなった。

表 9　大学別の企業決定で重視する項目

	χ 2値=97.2874>χ 2(0.95)=65.1708					P値=0.0000								
	勤務地	業種	職種	経済的条件	職場環境	福利厚生	安定性・知名度	専門分野	企業の熱意	Uターン	ベンチャー型	ジェンダー	その他	合計
室蘭工業大学	214	138	279	352	319	73	179	79	13	21	16	13	3	1699
北見工業大学	80	57	114	157	152	41	78	22	20	9	9	15	1	755
北海道科学大学	276	133	326	430	435	83	200	89	21	25	20	45	9	2092
千歳科学技術大学	54	54	80	68	90	19	37	12	11	5	3	7	1	441
不明	2	3	4	2	4	0	2	1	0	0	0	0	1	19
合計	626	385	803	1009	1000	216	496	203	65	60	48	80	15	5006

（オ）就職先地域選定で重視する項目：ここでは就職先地域選定でそのキーとなる 14 項目について、重視の度合いを回答してもらい大学別に分析を行った。その結果について以下に略述する。

ここでは, 14 項目のうち、大学別の違いが認められる項目について言及したものである。すなわちここでは帰無仮説：{「各大学」と「就職先地域選定で重視する項目」の 2 要因には関連はない} の $\chi 2$ 独立性の検定を用いて検定を行った。すなわちその帰無仮説が棄却された場合、2 要因には何らかの関連があると考えて分析を行った。その結果、帰無仮説の有無について取りまとめたものが、表 10 のようになる。

表 10　2 要因の関連性の有無について

	就職先地域選定で重視する項目	2 要因の関連性検定結果
A1	自分を生かせる職種・業種の企業がある	関連なし
A2	規模が大きな企業がある	関連あり
A3	企業の教育環境が充実している	関連なし
A4	地域的な支援がある	関連なし
A5	友人・知人（先輩）等と一緒に仕事ができる	関連なし

A6	親元（近く）で生活や仕事ができる	関連なし
A7	転勤が少なく、あっても近くである	関連なし
A8	先端的情報や刺激が多く入手できる	関連なし
A9	企業誘致が積極的な地域である	関連なし
A10	北海道の将来に夢が持てる	関連あり
A11	居住（生活）環境が良い	関連なし
A12	生活するための経済的負担が少ない	関連なし
A13	将来の家庭生活設計が立てやすい	関連なし
A14	自分の挑戦や冒険心がかなえられる	関連なし

表 10 をみると、「A2 規模が大きい企業がある」と「A10 北海道の将来に夢が持てる」の 2 項目のみに各大学との間で関連性があることがわかった。他の項目については各大学との間での関連性が認められなかった。関連性がないことは、それぞれの項目に対して、どの大学も同じような傾向を示し、大学の違いによる項目での反応の違いが認められないことを意味する。すなわち、単純集計結果で整理された考え方が、各大学においても成り立つと考えられる。

したがって、ここでは、関連ありと認められた A2 と A10 について、その特性を記述する。

表 11 は 4 大学と志望地域決定においての重視項目「A2 規模が大きい企業がある」とのクロス分析結果である。これによると、重視度がやや強いのが室工大、及び北見工大である。これに対して、北海道科学大と千歳科技大は、重視度がそれほど高くなく、前者２校との間での違いがみられる。すなわち、企業規模の大きさが、志望地域の決定においてそれほど重視されていないことがわかった。

表 11　大学別の志望地域決定のための項目の重視度

（規模の大きい企業があること）

χ2値=75.9546>χ2(0.95)=65.1708　　P値=0.0062

	わからない	全く重視していない	あまり重視していない	どちらともいえない	やや重視している	かなり重視している	(空白)	合計
室蘭工業大学	9	23	78	146	247	67	10	580
北見工業大学	2	14	46	75	90	25	4	256
北海道科学大学	12	22	150	231	223	66	9	713
千歳科学技術大学	1	6	38	58	31	11	4	149
不明				5	1			6
合計	24	65	312	515	592	169	27	1704

表 12 は、各大学と志望地域決定の項目「A10 北海道の将来に夢が持てること」との関連性のクロス分析結果である。こちらの場合も２要因には有意差があると判定されたものである。

表 12　大学別の志望地域決定のための項目の重視度
（北海道の将来に夢が持てること）

$\chi 2$値=112.1026> $\chi 2(0.95)$=58.1240　　P値=0.0000

	わからない	全く重視していない	あまり重視していない	どちらともいえない	やや重視している	かなり重視している	(空白)	合計
室蘭工業大学	29	115	101	188	102	35	10	580
北見工業大学	19	55	45	79	39	16	3	256
北海道科学大学	27	59	104	239	182	95	7	713
千歳科学技術大学	2	17	24	55	25	21	5	149
不明	1		2	2		1		6
合計	78	246	276	563	348	168	25	1704

これによると、各大学での重視度は高いとはいえないものの、やや重視の傾向が室工大、北海道科学大、千歳科技大に認められる。しかしながら、北見工大では、そのような肯定的な考え方は強くなく、重視していない傾向が強くみられている。

（カ）道内企業への就職への考え方：表 13 は各大学の道内企業への就職に対する考え方をまとめたものである。

表 13 大学別道内企業への就職に対する考え方

$\chi 2$値=139.4088> $\chi 2(0.95)$=28.8693　　P値=0.0000

	優先的に考えている	優先的ではないが、可能性はある	全く考えていない	(空白)	合計
室蘭工業大学	212	237	101	30	580
北見工業大学	60	114	72	10	256
北海道科学大学	391	210	65	47	713
千歳科学技術大学	66	53	16	14	149
不明	2	1	2	1	6
合計	731	615	256	102	1704

これによると、室工大、北見工大は、「優先的ではないが可能性がある」という考え方に最も高い反応があった。これに対して北海道科学大、千歳科技大は「優先的に考えている」という考え方が最も強かった。一方次善の考え方としては、室工大では「優先的に考えている」、北見工大では「全く考えていない」が選ばれている。北海道科学大、千歳科技大では「優先的ではないが可能性がある」という考え方が選ばれている。このことによって、北海道科学大、千歳科技大は就職に関して北海道志向が強く、室工大はやや強く、北見工大は、道内企業への志向はやや弱いと結論づけられる。

（キ）大学別道内企業説明会への参加意思：表 14 は各大学での道内企業が行う説明会への参加意思に対するクロス分析結果である。

表 14　大学別道内企業説明会への参加意思

χ2値=40.0070>χ2(0.95)＝28.8693　　P値=0.0020

	ぜひ参加したい	できれば参加したい	今のところ考えていな	(空白)	合計
室蘭工業大学	113	204	198	65	580
北見工業大学	35	83	104	34	256
北海道科学大学	89	292	259	73	713
千歳科学技術大学	26	72	40	11	149
不明	1	2	1	2	6
合計	264	653	602	2	1704

これによると、北見工大を除く他の 3 大学は「できれば参加したい」というカテゴリーに最も多くの回答が寄せられている。これに対し、北見工大は。「今のところ考えていない」に、最も多く反応している。全体的には、参加意思については、まだ熟していないと判断される。

（ク） 大学別道内企業のインターンシップへの参加意思：表 15 は、各大学別の道内企業のインターンシップ参加意思をクロス分析したものである。

これによると、室工大、北海道科学大、千歳科技大では、上述の企業説明会と同様、「できれば参加したい」というカテゴリーに最も多くの回答が集まった。これに対し、北見工大は、「今のところ考えていない」という考え方が、最も多かった。何れにしても、北見工大の参加意思については、他の 3 大学に比べ最も低いことがわかった。

表 15　大学別道内企業のインターンシップへの参加意思

χ2値=41.1066>χ2(0.95)＝36.4150　　P値=0.0162

	ぜひ参加したい	できれば参加したい	今のところ考えていな	(空白)	合計
室蘭工業大学	115	245	171	49	580
北見工業大学	38	99	103	16	256
北海道科学大学	129	318	214	52	713
千歳科学技術大学	32	68	26	23	149
不明	1	3	1	1	6
合計	315	733	515	141	1704

（ケ） 道内企業の見学会及び経営トップの話を聞く会への参加意思

次に道内企業の見学会及び経営トップの話を聞く会への参加意思についても、大学別に分析を行ったが、ここでは大学ごとの差異を見ることができなかった。すなわち、統計学的に帰無仮説が棄却できず、それら 2 要因には関連性がないと判定された。したがって全ての大学では、前述した単純集計結果に表されるような均一の特徴を持つことが明らかとなった。

(3)．相関分析による重視項目間の繋がり

（ア）就職先地域選定における重視項目間の関係：

表 16　就職先地域選定における重視項目一覧

A1	自分を生かせる職種・業種の企業がある	A8	先端的情報や刺激が多く入手できる
A2	規模が大きな企業がある	A9	企業誘致が積極的な地域である
A3	企業の教育環境が充実している	A10	北海道の将来に夢が持てる
A4	地域的な支援がある	A11	居住（生活）環境が良い
A5	友人・知人（先輩）等と一緒に仕事ができる	A12	生活するための経済的負担が少ない
A6	親元（近く）で生活や仕事ができる	A13	将来の家庭生活設計が立てやすい
A7	転勤が少なく、あっても近くである	A14	自分の挑戦や冒険心がかなえられる

ここでは、先に論じた就職先地域選定における重視項目相互の関係について、相関分析によって解析した結果を示す。表 16 は重視項目 14 項目の簡単な説明である。また、相関分析結果での重視項目相互の相関係数を一覧表に表したものが表 17 である。重視度間の相関の強さは、次のような基準によって説明をおこなう。すなわち①相関係数が 0.5 以上の場合、相関がある、②相関係数が 0.5 未満 0.4 以上の場合、やや相関がある、③相関係数が 0.3 未満 0.3 以上の場合、弱い相関がある、④相関係数が 0.3 未満 0.2 以上の場合、非常に弱い相関があるという基準である。

表 17　相関分析によって得られた各項目間の相関係数

	A1重視度1	A2視度2	A3重視度3	A4重視度4	A5重視度5	A6重視度6	A7重視度7	A8重視度8	A9重視度9	A10重視度10	A11重視度11	A12重視度12	A13重視度13	A14重視度14
A1重視度1	1.0000	0.1605	0.1914	0.1192	0.0578	0.0492	0.0324	0.2039	0.1369	0.0789	0.1568	0.1351	0.1548	0.2384
A2重視度2	0.1605	1.0000	0.2949	0.2106	0.1371	0.0889	0.0710	0.2707	0.3185	0.1530	0.1652	0.1264	0.2182	0.2035
A3重視度3	0.1914	0.2949	1.0000	0.4282	0.1399	0.0723	0.1522	0.3221	0.3056	0.1837	0.2992	0.2963	0.3221	0.3221
A4重視度4	0.1192	0.2106	0.4282	1.0000	0.2908	0.2663	0.1918	0.2826	0.4462	0.3626	0.2622	0.2622	0.3310	0.2572
A5重視度5	0.0578	0.1371	0.1399	0.2908	1.0000	0.2934	0.1375	0.1100	0.2208	0.2496	0.1784	0.1550	0.1628	0.1082
A6重視度6	0.0492	0.0889	0.0723	0.2663	0.2934	1.0000	0.2736	0.0591	0.1627	0.2657	0.1787	0.1838	0.1684	0.0357
A7重視度7	0.0324	0.0710	0.1522	0.1918	0.1375	0.2736	1.0000	0.1497	0.1614	0.1776	0.2694	0.2338	0.2044	0.0193
A8重視度8	0.2039	0.2707	0.3221	0.2826	0.1100	0.0591	0.1497	1.0000	0.4566	0.2050	0.2119	0.2026	0.2314	0.5075
A9重視度9	0.1369	0.3185	0.3056	0.4462	0.2208	0.1627	0.1614	0.4566	1.0000	0.4122	0.2154	0.2144	0.2983	0.3606
A10重視度10	0.0789	0.1530	0.1837	0.3626	0.2496	0.2657	0.1776	0.2050	0.4122	1.0000	0.2378	0.2325	0.2830	0.2757
A11重視度11	0.1568	0.1652	0.2992	0.2622	0.1784	0.1787	0.2694	0.2119	0.2154	0.2378	1.0000	0.5473	0.4464	0.2293
A12重視度12	0.1351	0.1264	0.2963	0.2622	0.1550	0.1838	0.2338	0.2026	0.2144	0.2325	0.5473	1.0000	0.5689	0.2188
A13重視度13	0.1548	0.2182	0.3221	0.3310	0.1628	0.1684	0.2044	0.2314	0.2983	0.2830	0.4464	0.5689	1.0000	0.3082
A14重視度14	0.2384	0.2035	0.3221	0.2572	0.1082	0.0357	0.0193	0.5075	0.3606	0.2757	0.2293	0.2188	0.3082	1.0000

まず相関の高いものから順に具体的にその関連性について述べる。

① 始めに最も相関が高かったのは A12（生活するための経済的負担が少ない）と A13（将来の家庭生活設計が立てやすい）の関係である。この関係は当然の関係といえるが、学生の将来設計が生活中心の考え方に明確に整理できていると考えられる。また A11（居住環境が良い）と前述した A12（生活するための経済的負担が少ない）にも強い結びつきがある。また A13（将来の家庭生活設計が立てやすい）とのやや強い相関関係があり、この 3 つの項目の関係が明確なことにより、就職先地域決定においては必要不可欠な要素であると解釈できる。

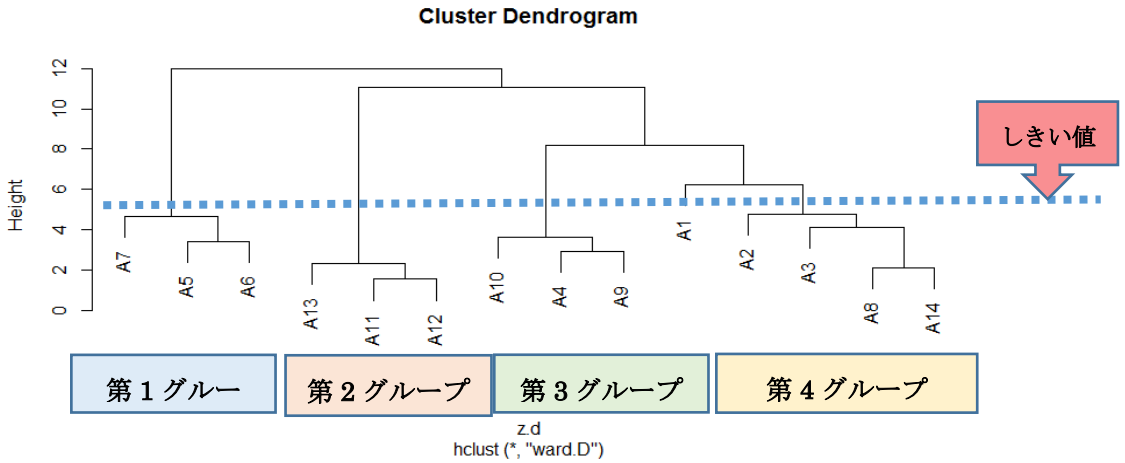
② 次に、A8（先端的情報や刺激が多く入手できる）と A14(自分の挑戦や冒険心がかなえられる)の相関も認められる。これは、技術系大学に入学した学生らしく、先端的な職業に対する夢が現れた期待する重視項目と考えられる。A8（先端的情報や刺激が多く入手できる）については、A9（企業誘致が積極的な

地域である）とのやや相関があるという結果を得ている。これは、新しい産業についての誘致が夢をかなえるためには必要であるという要望の結果といえる。

③ A9（企業誘致が積極的な地域である）についてはA10（北海道の将来に夢が持てる）との相関も認められる。こちらの場合、北海道の将来に夢を持つならば、企業誘致にも積極的な地域であってほしいとの願望の現れと考えることができる。またA9（企業誘致が積極的な地域である）は、A4（地域的支援がある）との相関も認められる。企業誘致を積極的に行うためには地域的支援が必要だということを新入学生も認識していることがわかる。

④ もう1つの特徴として、A3（企業の教育環境が充実している）とA4（地域的支援がある）の相関も認められる。この関係は、企業として北海道で活動するためには、企業の教育環境の充実と、地域的支援が必要であるという志向が働いているものと考える。

図表1　クラスター分析により得られたデンドログラム
（就職先地域決定に関わる重視度項目評価）



第1グループ：人間関係の充実を求める志向	第3グループ：地域活力を育む志向
A5:友人・知人（先輩）等と一緒に仕事ができる	A4:地域的支援がある
A6:親元（近くで）で生活や仕事ができる	A9:企業誘致が積極的な地域である
A7:転勤が少なく、あっても近くである	A10：北海道の将来に夢が持てる
第2グループ：経済的基盤・生活環境を充足する志向	**第4グループ：先端的企業への夢を実現する志向**
A11:居住（生活）環境が良い	A8:先端的情報や刺激が多く入手できる
A12:生活するための経済的負担が少ない	A14:自分の挑戦や冒険心がかなえられる
A13:将来の家庭生活設計が立てやすい	A3:企業環境が充実している
	A2:規模が大きな企業がある
	A1:自分を活かせる職種・業種の企業がある

⑤ これらの相関係数を用いて、相互の関係をより明確に示すため、クラスター分析を行なった。その結果を図表１に示す。
この図表は得られたクラスターのデンドログラムである。ここでのクラスタリングの方法は　第１章で示されたインターンシップ学生への調査結果で検討したものと同様に、ウォード法、距離の速度は、得られた相関係数を距離とする最遠隣法によりユークリッド距離の平方を用いた。その結果 Height が 7.0 の場合得られたものが図示されたもので、以下にそれらを簡単に説明する。第１グループは人間関係、付き合い等を維持すること、すなわち人間関係の充実を志向するグループとした。ここには、A5 （友人・知人（先輩）等と一緒に仕事ができる)、A6（親元（近く）で生活や仕事ができる)、A7（転勤が少なく、あっても近くである）の３つの要素が分類された。第２グループは、将来の経済基盤、生活の満足を生む生活設計を大事にすること、すなわち経済的基盤、生活環境を充足するグループとした。ここには、A11(居住（生活）環境が良い)、A12（生活するための経済的負担が少ない)、A13（将来の家庭生活設計が立てやすい）の項目がいちづけされる。第３グループとしては、地域的支援、企業誘致の姿勢、北海道の将来などの地域活力を生む志向である。ここでは、A4（地域的支援がある)、A9（企業誘致が積極的な地域である)、さらに A10（北海道の将来に夢が持てる）の３要因が加わっていく。最後の第４グループは先端的情報獲得と冒険心を満足するなどの夢へ向かう志向である。このグループには、A8（先端的情報や刺激が多く入手できる)、A14（自分の挑戦や冒険心がかなえられる)、A3（企業の教育環境が充実している)、A2（規模が大きな企業がある)、および A1（自分を活かせる職種・業種の企業がある）などが入ってくる。

以上のことから、新入学生の就職先を決定するポイントとしては、技術系大学での学びを通して夢を実現すること、また地域活力を生かすこと、経済的基盤や生活環境を充足させること、さらに人間関係の充実を求めることなどが重要なものであり、望んでいる。したがって特に今後の道内企業側の採用活動には、これらのポイントに対しての対応を行い、また学生のニーズを取り込み、それらを満足するものが必要になってくると考える。

(4) ．クロス分析及び相関分析による結果のまとめ

ここでは、上述したクロス集計分析及び相関分析結果の要約をする。

① はじめに志望進路と希望する勤務条件の関係であるが、民間企業希望と公務員希望によって勤務地域との関係が異なることがわかった。すなわち民間企業の場合道内、道外がほぼ均衡している反面、公務員の場合は地元志向（札幌圏）が強いことがわかった。志望企業の規模についてはあまり強い希望が

ないことがわかった。さらに志望決定に対して重視項目は、最優先項目としては職場環境を重視する場合が多いことがわかった。しかしながら複数回答の場合、民間企業希望の場合給与などの経済的条件重視の考え方が強くなる。ここでも公務員希望の場合は差異があり職場環境重視の考え方が強いことがわかった。

② 大学高専別の特性分析は様々な角度から検討された。まず大学・高専別の志望進路であるが、大学では民間企業志望が最も多いが、次に公務員となっている。一方高専では民間企業志望が多いが大学編入を考えている学生も多くなっている。また企業の規模であるが、これは職種の違いに密接に結びついている。特に製造業（情報・通信）関係は必ずしも大企業志向となっていない。

③ 希望する勤務地域は、多くの大学・高専で道内（札幌圏）が比較的多いことがわかった。また志望企業決定においては各大学高専でそれぞれ異なった項目が選択されている。例えば室工大は職種重視、北見工大は勤務地重視、北海道科学大、千歳科技大は職場環境重視が優先される。高専の場合も、釧路、函館高専は職種重視、旭川、苫小牧高専は職場環境重視を優先している。

④ 就職先地域選定で重視する項目での各大学・高専の特性は、それぞれの項目について次のような評価が得られた。室蘭工大は自分を活かせる職種、規模の大きな企業、企業の教育環境の充実などに他校に比べ重視度が高い傾向がみられる。北見工大は、企業の教育環境の充実の項目に重視度が高い点がみられる。逆に先端的情報や刺激が多く入手できる、挑戦・冒険心が獲得できるという項目では頼り低い比率であった。北海道科学大は企業の教育環境の充実、北海道の将来に夢が持てると言った項目に他校より重視度が高いのがみられる。逆に自分を活かせる職種、規模の大きな企業などは他校より低い重視度が得られた。千歳科技大は自分を活かせる職種、企業の教育環境の充実などに他校に比べ高い重視度がみられる。しかしながら、規模の大きな企業、地域的支援がある、転勤が少なくあっても近くである、将来の家庭生活設計が立てやすいと言った項目に、他校より低い重視度となっている。

⑤ 一方、高専の場合では次のような特徴がある。釧路高専の場合、親元近くで生活や仕事ができる、先端的情報や刺激が多く入手できるといった項目に重視度が高い面が見つかった。旭川高専の場合、先端的情報や刺激が多く入手できるという項目に高い重視度を持つ反面、地域的支援がある、将来の家庭生活設計が立てやすいという項目に低い重視度が見つかる。苫小牧高専では、先端的情報や刺激が多く入手できるという項目に低い重視度を見つけることができる。

函館高専の場合、ほとんど他の高専と重視度においては特筆することはない。このことは大学・高専全体においても同様である。

⑥ 道内企業への就職の考え方では、優先的に考えているのは、北海道科学大、千歳科技大、釧路高専及び苫小牧高専となっている。可能性の意味で考えると、室蘭工大、北海道科学大、千歳科技大、苫小牧高専、及び旭川高専が高い比率を示している。特に北海道科学大は地元志向が特に高いことがわかった。

⑦ インターンシップ参加については、千歳科技大は、情報・通信系製造業、旭川高専は化学中心の製造業にそれぞれ特化しているが、そのほかは建設業が多いことがわかる。

⑧ 職場のある地域では、大学は道内にそれを求めているが、高専の場合比較的道外が多かった。プログラムについては、見学・職場体験が中心となっているが、職種の影響もあり一部には実務実技中心に行う場合もあった。

⑨ インターンシップ先の選択理由は、北見工大、千歳科技大、釧路高専以外の高専は、就職を希望する業種を最大の理由としてあげている。また室蘭工大、北海道科学大は就職先として意識したことを上げている。釧路高専は実務を経験したいというのを最も多い理由選択となっている。

⑩ インターンシップに参加することによる効果としては、９つの効果項目でそれぞれの大学・高専の特徴がみられた。

⑪ 就職先地域選定における重視項目間の関係について相関分析を行った結果、夢が実現できる未来志向を強くつなぐ考え方、身近な関係ができることによって安心、安定した働く場を思考する考え方、最近の若者の行動パターンを反映した現実的な考え方、北海道の将来に対する期待などの考え方などが潜在的な分析結果として把握できた。それらの項目のクラスター分析を行うと、4つのクラスターが浮かび上がり、それらを大別すると、先端的技術に関するグループと地域特性に関するグループの２つのグループに明確に分けられた。

⑫ インターンシップに参加して得られた効果としては、相関分析の結果、就職活動に対する目標、就職後の自分の進路への自信、参加企業またはその業種への就職意思などが相互に連関を持ち、就職活動に対する目標ができれば対象となる業種の立地する地域も考えられること、さらに道内での具体的なインターンシップの効果として道内企業への希望が持てることになったことなどが明らかとなった。また類似度によるクラスター分析を行うと、4つのクラスターに分類される。ものの見方、考え方に対する効果、職場実践体験の習得効果、進路目標への動機に関する効果、就職対象地域を考える効果などである。